

雪の音

ゆき おと

平成25年2月15日発行 Vol.117



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

巻頭言…老巧インフラの安全対策	支部長 寺本邦一	1
特集…大源太川第1号砂防堰堤～昭和初期に竣工した最初期のアーチ式砂防堰堤～	北陸地方整備局 湯沢砂防事務所	2
随想…立山砂防のオッカチャン応援隊	吉友嘉久子	9
寄稿文…良寛さんに学ぶ パートⅡ	全国良寛会会長 長谷川 義明	12
「日本の禅宗寺院：七堂伽藍と人体表相図」	苫小牧工業高等専門学校 教授 沖本正憲	16
ちょっと気になるコーナー…「庄内ひな街道」	中越交通株式会社 取締役営業部長 山崎康裕	20
お知らせ…平成24年度 道路・トンネル見学会	技術部会 道路委員会・トンネル委員会	23
平成24年度 新潟県土木部との意見交換会の概要	対外活動部会・新潟地域委員会	27
平成24年度 北陸地方整備局との意見交換会の概要	対外活動部会	33
平成24年度 新潟市との意見交換会の概要	対外活動部会・新潟地域委員会	36
平成24年度 里山に関する技術講演会報告	技術部会 河川及び砂防委員会・環境委員会	40
社会貢献活動報告～みんなで参加してプランターに花を!!～	広報部会	41
平成24年度「小学生のための出前講演」～新潟市立大形小学校～	広報部会	43
平成24年度「小学生のための出前講演」～新潟市立丸山小学校～	広報部会	47
「業務・研究発表会」の開催と論文募集		50
第1回 北陸橋梁保全会議一報文募集のお知らせ		51
支部活動報告	事務局	52
会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	55
編集後記	武田 稔	

題字 元北陸地方建設局長
廣瀬 利雄 揮毫

表紙写真 旅立ちの準備
撮影地 新潟県阿賀野市(瓢湖)
撮影者 猪俣 孝之



老朽インフラの安全対策

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部長

寺本 邦一

我国の社会インフラは1960年代頃からの高度経済成長とともに整備されてきましたが、それらインフラの多くがこれから寿命を迎えようとしている現在、インフラ老朽化への対応が大きな課題となって目前に突きつけられています。

昨年12月2日に中央自動車道・笹子トンネルで天井板が約130メートルにわたり連鎖落下する事故が発生し、通行中の車3台が下敷きになり9人が死亡、2人が重軽傷という犠牲者を出しました。天井板崩落は換気ダクトを構成する天井板のつり金具の先のアンカーボルトが天井コンクリートから脱落したのが原因と見られています。笹子トンネルは開通後35年を経ており、ボルト、コンクリート、接着剤が劣化していた可能性が高いと考えられます。

事故原因究明と再発防止に向け「事故調査・検討委員会」が設置され、検討が進められているところであり、その解明が待たれるところです。

インフラ老朽化問題はこれから益々深刻化します。全国のトンネルの4割強が完成から30年以上経過。また約16万カ所ある全長15メートル以上の橋梁の平均経過年数は44年で、老朽化により通行止めとなっているのが200カ所余、重量制限などの規制を設けているのが1,160カ所になっていて、これらを合すると4年前に比べ1.7倍に増えています。

20年後には、寿命の目安とされる築50年を超えるトンネルの割合が現在の18%から46%に、同様に道路橋梁が8%から53%、河川管理施設が23%から60%に達すると見込まれています。

公共施設の維持管理・更新には今後40年間に570兆円を要するとの試算もありますが、国家予算の6倍に及ぶ費用を賄うのは不可能です。インフラの「選択と集中」使用に苦慮することとなり、社会への影響は計り知れません。

利用者の安全や地域の安全確保に向け、老朽化したインフラに対する一貫性のある維持管理システムへの取り組みが求められています。〈施設点検・把握⇒補修計画作成⇒補修・補強対策〉の反復でインフラの計画的・効率的な維持管理を行い、その後⇒更新となる訳ですが、劣化の進行を管理する診断カルテ等の継続的な作成とデータベース化が不可欠であります。そして質の高い診断技術や補修技術の向上を目指した技術開発と技術伝承・人材育成を確実に行わなければなりません。

国民生活の安全確保をはかるため、押し寄せる「社会インフラの高齢化」に対する適切な対応策を早急に確立し、「崩壊する日本」を防止する時であります。

国土強靱化の本質に関わることであり、建設コンサルタントは知的産業の代表として高いメンテナンス技術と地域精通度を活かし、アセットマネジメントやライフサイクルアセスメントによる社会資本の耐久性向上に真価を発揮していかなければなりません。

大源太川第1号砂防堰堤 ～昭和初期に竣工した最初期のアーチ式砂防堰堤～

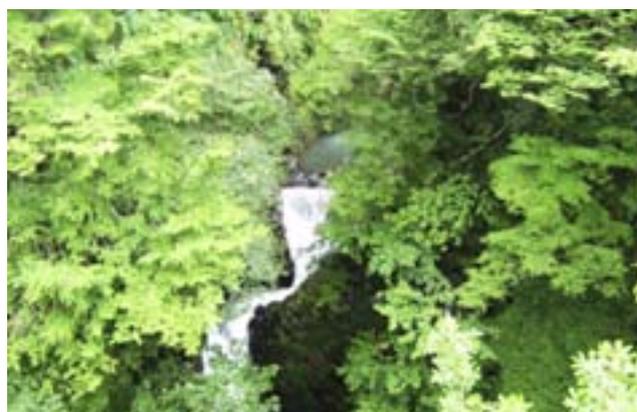
北陸地方整備局
湯沢砂防事務所

1 はじめに

大源太川第1号砂防堰堤は、大源太川の基幹砂防堰堤であり、昭和14年に竣工された現役の砂防堰堤です。大源太川は、新潟県南魚沼郡湯沢町を流れ信濃川の右支川魚野川に合流する一級河川で、平均勾配は約12分の1の急流河川です。大源太川流域は、最上流部の重荒地「谷川岳」、下流域には火山である飯土山の存在に加え、日本海側気候に属し特別豪雪地帯でもある当地域の特徴である雪崩、融雪、凍結融解に伴う浸食作用が著しく、大量の土砂を生産、流出させています。当地域を含む魚沼地域は古来より土砂災害の多い地域で、昭和12年に魚沼地域で発生した大水害を契機とし、内務省新潟土木出張所魚野川砂防工場（現国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所）により直轄砂防事業が始まりました。現在、大源太川には5基の砂防堰堤や溪流保全工が設置されていますが、その中の一つが、登録有形文化財であり、土木学会選奨土木遺産に指定されている『大源太川第1号砂防堰堤』です。



現在の大源太川第1号砂防堰堤



堰堤下流にある橋からの初夏の風景
ここからは副堰堤（アーチ式）が望める



大源太川第1号砂防堰堤位置図



堰堤によって作りだされた人造湖（大源太湖）周辺は、夏にはキャンプやカヤック体験などに利用されている



紅葉シーズンの堰堤と吊り橋。湖面に映る紅葉が美しい

2 直轄砂防事業の始まり

大源太川を含む魚沼地域は古来より災害が多い地域であり、昭和2年から新潟県によって魚沼地域でも砂防事業が始まりました。昭和5年、8年、10年、12年には連続して大水害が発生し、特に昭和10年9月25日の暴風雨は日雨量328mmにも達し、この豪雨により多数の山崩れが発生し河川が氾濫しました。南魚沼地域だけでも田畑の冠水は550haにおよび、収穫は皆無の状態でした。また魚野川沿いにあった上越線土樽駅の東の国鉄職員宿舎18戸が瞬時に濁流に呑まれて流出するとともに、出水前には10~15mだった川幅が浸食により一挙に約120mとなったそうです。また宿舎のみではなく、開通したばかりの東京と新潟を結ぶ上越線自体も長期にわたり不通となってしまいました。

この魚野川の大水害や、戦前当時、魚沼地域を通り新潟市に至る上越線が極東アジア地域と東京を結ぶ重要な交通路であった等の状況から、政府としても魚沼地域の砂防対策が重要であるという判断がなされ、直轄による砂防工事が昭和12年から始まりました。この直轄工事は救農対策的な公共事業でもあり、地元の協力も大きく、大源太川では大源太川第1号砂防堰堤の他、板木砂防堰堤、猪小屋砂防堰堤の合計3基の砂防堰堤が昭和初期に設置されました。



昭和10年9月災害後の様子
湯沢町湯ノ沢川（魚野川に合流する左支川）



昭和10年9月災害後の様子。
越後湯沢一石打間の線路（線路上の土砂は撤去済）

3 大源太川第1号砂防堰堤

3.1 諸元

大源太川第1号砂防堰堤の諸元については以下の通りです。

水系：信濃川水系（一級河川）

河川名：魚野川支川大源太川

建設者：内務省新潟土木出張所魚野川砂防工場

管理者：北陸地方整備局湯沢砂防事務所

構造：練積コンクリート堰堤（粗石コンクリート）

型式：シリンダー公式による定半径アーチ堰堤

（中心半径18.92m、中心角121° 24' 18"）

着工：昭和13年5月16日

竣工：昭和14年11月30日

扞止量：166,700m³、貯砂量：550,000m³

調節量：55,000m³

元河床勾配：1/22.1、貯砂勾配：1/44.5

流域面積：16.0km²

堤高：主堰堤18.0m、副堰堤3.0m

堤長：主堰堤33.0m、副堰堤10.0m

天端幅：主堰堤2.2m、副堰堤1.5m

法勾配：主堰堤 上流法 鉛直

下流法 1：0.145（7.0m 以上）

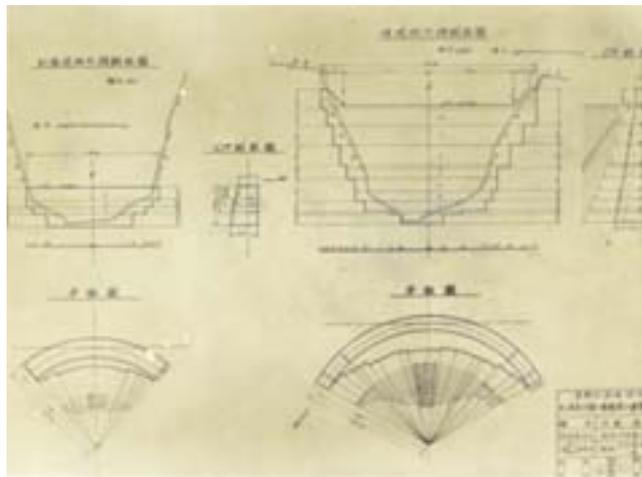
1：0.2（7.0m まで）

副堰堤 上流法 鉛直、下流法 1：0.2

また、完成から24年後の昭和38年には、堤体内部からの漏水が著しいため堤体補強のグラウト工事が行われ、堤体の保全が図られています。

3.2 計画・設計

大源太川第1号砂防堰堤の計画・設計の経緯については現存する記録がなく詳細は不明ですが、計画や設計も内務省新潟土木出張所魚野川砂防工場において実施されたものだとされています。記録は乏しいものの、工事変更設計図を撮影し関係者に配られていたものや完成直後の大源太第1号砂防堰堤の写真が現在でも残されています。設置目的については、古くから魚野川本川に多量の土砂を供給してきた急流荒廃河川である大源太川における流出土砂抑制とされています。当初、大源太川では砂防堰堤を3基建設する計画となっており、大源太川第1号砂防堰堤の完成が間近になると、上流側に位置する板木砂防堰堤、猪小屋砂防堰堤と平行して工事を進めたようです。



当時撮影され関係者に配られていた工事変更設計図



完成後越水状況（左岸より望む）昭和15年4月23日撮影



施工途中の大源太川第1号砂防堰堤



竣工直後の大源太川第1号砂防堰堤（下流から）

3.3 施工

昭和10年代の湯沢砂防工場による砂防工事は、山間僻地の施工のために機械類がほとんど使用できない状況にありました。セメント等の資材運搬も基地から人肩または牛馬に頼り、コンクリートもミキサーではなく鉄板の上での手練りであったといわれています。間知石や砂・砂利等の石はすべて現地付近で調達したようで、これも人力によって運搬していました。当時の一般的な作業の流れとしては以下の手順でした。

- ① 石工が現場近くの玉石を割り間知石を作成
- ② 人夫が砂利、玉石、コンクリート、作成された間知石等の資材を現場まで運ぶ
- ③ 積み職人が堰堤表裏に間知石を積む
- ④ 人夫が堰堤内部に玉石による粗石コンクリートをつめる

当時の工事現場には相当数の人夫がおかれていましたが、ほとんどが地元の人々だったといわれています。これは、砂防事業は他の土木工事とは異なり、事業費の多くが労務費として直接農民の手に渡り、救農対策的な役割を担っていたためといわれ、大水害で職を失った地域住民が砂防工事に携わり、現金収入を得て生活を立て直していたそうです。また、女性の人夫も多かったようで、日当は「砂利箱」を一箱運ぶごとに棒一本が渡され、後から棒の本数によって支払われていたようです。



当時の施工中の様子 昭和17年11月27日撮影
(清水下流砂防堰堤工事施工状況)
人力で資材を運搬している様子が伺える



人力による砂防工事。
タガラ（背負いかご）で砂利を運ぶ風景（昭和31年）
出典：ふるさと思い出写真館 六日町・塩沢

3.4 技術的特徴

3.4.1 堤体の型式

大源太川第1号砂防堰堤型式には定半径アーチ式（シリンダー公式による定半径アーチ堰堤）が採用されていますが、アーチ式砂防堰堤は全国的に見ても多くはありません。それはアーチ式砂防堰堤の場合、堰堤サイトの兩岸の岩盤が良好である必要がありますが、日本国内では適地が多くないことによります。

一般的にアーチ式砂防堰堤は重力式砂防堰堤に比べて堤体体積を三分の一程度に軽減することが可能であり、経済的な型式といえます。大源太川第1号砂防堰堤に関しても堰堤サイト付近は「四十八滝」と称する地盤の堅固な狭窄部であったことから、経済的に有利なアーチ式を採用したものだと考えられます。

また、国内で戦前に着工されたアーチ式砂防堰堤のなかでも極めて初期に着工された堰堤であり、また堰堤高は18m、計画貯砂量は550,000m³で、当時の砂防堰堤の規模としては格段に大きいものです。昭和10年の災害による河床堆積土砂が著しく多かったため、大規模な砂防堰堤で土砂の流出を制御しようとしたものと考えられています。

戦前に着工したアーチ式砂防堰堤一覧（着工順）

名称	所在地		工期	
	都道府県	市町村	着工	竣工
芦安堰堤	山梨県	芦安村	不明	昭和5
杳沢堰堤	山梨県	芦安村	不明	昭和12
釜ヶ淵上流堰堤	長野県	安曇村	昭和11	昭和19
大源太川第1号砂防堰堤	新潟県	湯沢町	昭和13	昭和14
宮街道堰堤	長野県	松本市	昭和13	昭和14
箱繕堰堤	長野県	山ノ内町	昭和13	昭和18
土合堰堤	群馬県	水上町	昭和15	昭和16
大井滝堰堤	兵庫県	西宮市	昭和16	昭和16

参考：「わが国における既設砂防アーチダムの展望」より
新砂防（20-2 S42.10）

3.4.2 堤体の構造

堤体の構造は、堤体表面と裏面を間知石などの割石を積んで構成し、内部には中詰め石として付近の河床材料を30%程度混入し、その隙間にコンクリートを充填した『粗石コンクリート構造』です。

大源太川第1号砂防堰堤を構成する堤体表面・裏面には『矢羽積』と呼ばれる間知石の積み方が採用されていますが、これはできあがった景観が整然としているため大正末期以降の構造物に多く採用されている方式です。しかしながら積むには高度な技術が必要で、大源太川第1号砂防堰堤のアーチ形状の基礎を築いた石工の中には「石工の神様」とよばれた職人もいたそうです。

堤体内部の粗石コンクリートの施工にあたっては、まず粗石をしき並べ、その中にコンクリートを投入し、その後コンクリートと粗石を一体化させるため突き棒で突き固めていき、打設したコンクリートから粗石が頭を出しているような状態で1層の打設を終了し、この作業を繰り返し打設を行っていたようです。粗石コンクリート構造はセメントが貴重だった当時、砂防堰堤建設に当たっては一般的に用いられた構造で、湯沢砂防事務所管内でも昭和30年頃まで同様の構造形式によって行われていました。

<石の積み方>

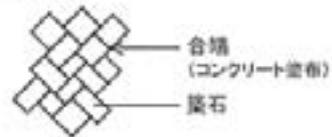
【矢羽積】



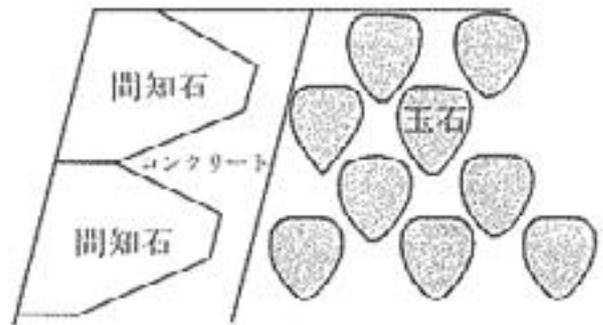
【横積】



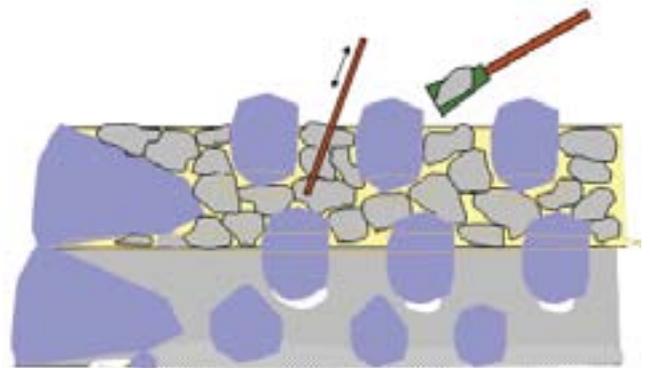
【堤防谷積】



大源太川第1号砂防堰堤は矢羽積を採用している。



粗石コンクリートの構造様式図

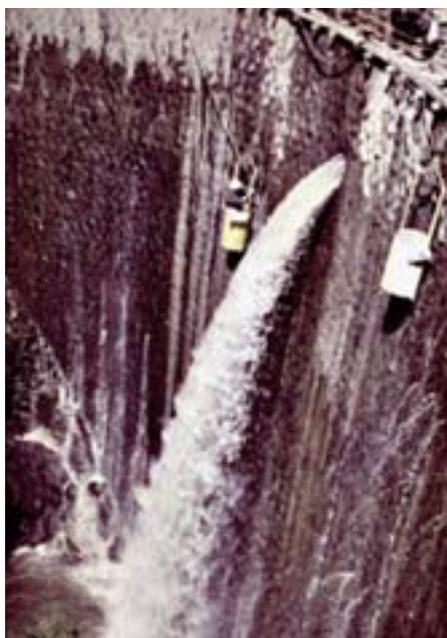


粗石コンクリートの施工様式図
粗石を敷き並べた中にコンクリートを投入、
一体化させるため突き棒で突き固める。

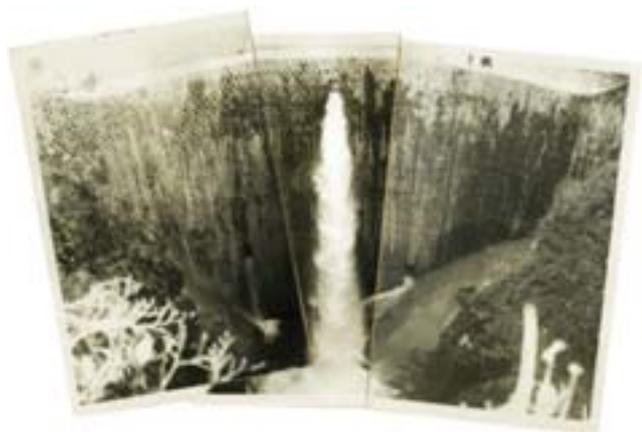
4 補修工事

完成24年後の昭和38年から、堤体嵌入部の岩盤及び堤体内部からの漏水が著しいため、堤体補強のグラウト工事が行われました。工事内容としては以下の通りです。

- ① 堤体上流側に止水のため、薬液注入工法によるカーテングラウトの施工
- ② 兩岸袖部、堤体および基礎岩盤補強のため、堤体下流側よりセメントミルク注入の施工
- ③ 下流法先洗掘による補強のための間詰工事



グラウト工事着手前漏水状況



グラウト工事竣工全景写真

5 登録有形文化財としての価値

登録有形文化財の登録基準は、築後50年以上経過していること、そのうえ『国土の歴史的景観に寄与しているもの』『造形の規範となっているもの』『再現することが容易でないもの』のいずれかに該当することが必要です。大源太川第1号砂防堰堤は平成15年7月1日に、『国土の歴史的景観に寄与しているもの』を該当事由として登録有形文化財に登録されました。

大源太川第1号砂防堰堤は昭和14年に完成し、築後50年以上経過している構造物であり、日本におけるアーチ式砂防堰堤の中でも最初期に完成した現役の土木構造物であること、優れた技術を有した石工職人らによって築造されたこと、本体表面の石積みとアーチ構造、越水する流れが織りなす美しい景観が周囲の景観形成に大きく寄与していること、砂防堰堤がつくりだした「大源太湖」周辺が「大源太キャニオン」と称されたリゾート地域として利用されており、この地域のランドマーク的存在ともなっていることなどが文化財としての価値として挙げられます。



登録有形文化財の登録証と銘板

6 土木学会選奨土木遺産

公益社団法人土木学会では、社会へのアピール、土木技術者へのアピール、まちづくりへの活用、歴史的土木構造物の保存に資することなどを促すことを目的に近代土木遺産を対象として、土木学会選奨土木遺産の認定を行っており、平成12年から推薦および一般公募により、年間20件程度が選出されています。

大源太川第1号砂防堰堤も、直轄砂防事業として日本で最初期に完成したアーチ式砂防堰堤であり、堰堤

表面の石積みとアーチ造が織りなす景観が評価され平成23年度選奨土木遺産として認定されました。

他にも新潟県内では、万代橋（新潟市）が平成14年度に、中山隧道（長岡市山古志）が平成18年度に、親不知旧道（糸魚川市）が平成19年度に、加治川運河水門、土砂吐水門（新発田市）が平成24年度に認定されています。



土木学会選奨土木遺産銘板

7 おわりに

現在、大源太川第1号砂防堰堤は、地域の安全を守りつつ、地域の景観・文化の形成に寄与していますが、建設当時の資材不足や機械が利用できない状況等、先達の苦労は言い尽くせないものと思います。諸先輩方の意思を今後も引き継ぎ、地域の皆様のご理解ご協力を賜りながら安全・安心を守る砂防事業を進めていきたいと思っています。

立山砂防のオッカチャン応援隊

吉 友 嘉久子



「山はいつ怒るか分からん。これで安心ということはないちゃ。わしは、いつも気い引き締めとらんとかん思うとんのや」。

立山カルデラの底に呆然と立ち尽くす私に、普段無口な「砂防の男」が熱く語り掛けた。24歳から常願寺川上流の砂防工事に携わってきた建設会社社長、松嶋久光さん。私とカルデラとの縁の始まりである。

富山県の代表的な観光地、立山黒部アルペンルート
の足元を深くえぐるように、巨大なくぼ地、立山カル
デラが立ちほだかっていた。

白々と乾燥し切ったカルデラは、まるでアリジゴク
が獲物を狙っているかのように、初めてこの奥地に
入った私に迫ってきた。



立山カルデラ全景

松嶋さんは52年間、使命感を持って現場で働き抜いた。共に働く300名の作業員たちを家族のように思いやり、仲間からは「オヤジサン」と慕われた。

松嶋さんが経験した数々のアクシデントの中で、関係者が口を揃えて語る事故がある。もう50年以上も前、川岸の資材運搬道路で除雪していた作業員がブルドーザーの運転を誤り、200メートルの断崖絶壁から崖の途中にあった落石と雪の間に突っ込んだ。

ドーンという音が辺りに響いた。集まった50人近い人たちは雪渓をただ見つめるのみ。

その時、駆けつけた松嶋さんは、いきなりロープを体に巻きつけ、ブルドーザー目掛けて雪渓を走り出した。転落したのは他社の作業員だった。どこの会社だろうと家族だという思いが、松嶋さんを走らせた。

ブルドーザーから作業員を引っ張り出すと、背中にかついで雪渓を登って来た。ロープを引っ張る人たちは声を上げた。

作業員は即死だったが、その勇気ある行動は人々の胸に刻みつけられた。

すべての仕事が命懸けだった。松嶋さんは、作業員宿舎のある水谷平に慰霊塔を建てた。湯元から1600メートルも離れた宿舎近くまでお湯を引き、作業員用の露天風呂も造った。

たとえ大きな功績で名をはせなくとも、松嶋さんのように黙々と工事を支え続けた人は多い。

一方、「富山は災害のない、いいところ」と根拠のない安全神話に寄りかかる私たち。本当なのだろうか。今、天国の松嶋さんはどんな思いで私たちを見守っているのだろうか。

立山カルデラの歴史は、155年前の安政の飛越地震にさかのぼる。マグニチュード6.8（推定）の地震で、

川の源流にあった大鳶山と小鳶山が崩壊。4億1千万立方メートルの土砂が雪の溪谷を埋め、途中でせき止められた川は天然のダムとなった。それが二度に渡って決壊し、大土石流が溪谷を一気に下り、勢いを増して下流を襲った。

巨大な岩石はぶつかり合い、大音響を上げ火花を散らしたという。江戸末期、人々の驚きは想像を絶するものだったにちがいない。



カルデラの要 白岩砂防えん堤

当時の崩壊土砂は、今なお2億立方メートルもカルデラ内に残されている。土石流となって再び下流を襲う危険性をはらんでいるのである。だからこそ、私たちは富山平野の安全を守るために、百年余りも崩れに挑む人たちがいることを知らなければならない。

彼らの苦勞も知らず、ゆるんだ心で暮らしてきた自分が恥ずかしかった。

この思いが私を突き動かし、女性サポーター構想を立ち上げることになった。体験に勝るテキストはない。まず、さまざまな団体のリーダーに声を掛け、現地体験してもらう活動「女性サロン in カルデラ」をスタートさせた。5年間で約100人が参加。

一人ひとりが、崩れと闘う人々の物語や災害に対する危機感を、自分の言葉で伝えていこうと語り部になった。

それが、「立山砂防女性サロンの会」へと発展し、結成12年目の現在、会員数は300名になった。

ささやかな歩みだが、砂防事業に関する勉強会やイベント、講演会への参加はもちろん、国内のみならず、海外の被災地を視察し、災害への理解を深めている。



立山砂防女性サロンの会

ネパールから始まった海外研修では、韓国、イタリア、スイス、ニュージーランドなど11か国を訪れている。

どの国でも自然の猛威に言葉を失ってしまうことが多い。

イタリアでは、ヴェネツィアから北へ車で3時間の所にあるバイヨントダムを視察した。1963年に起きた土石流がえん堤を超え、下流の町を呑みこみ、2000人の命を奪った。台湾南部中央山脈では2009年、3日間降り続いた記録的な豪雨が、村の背後の山を深くえぐり取った。轟音からわずか2分後、崩れた土砂が直下の村を襲い、500人が家屋と共に消えた。土砂の流出量が余りにも多過ぎ、重機で家屋を掘削することも、行方不明者を捜索することもできず、手つかずのままになっていた。

明治時代に常願寺川の改修に尽力した土木技師、ヨハネス・デ・レーケの故郷オランダでは、思い掛けない出来事があった。

1873年来日したデ・レーケは、全国各地の治水港湾事業に携わり、30年間を日本で過ごしている。

「せめて感謝の祈りを」という願いが通じたのか、土地の人も知らないというデ・レーケの墓を、バスの運転手さんが探してくれた。アムステル川のほとり、公園の中にある墓の前で手を合わせることはできたのは幸せだった。



デ・レイケのお墓



台湾海外研修参加者



オランダ海外研修参加者

今、改めて思う。私たち「オッカチャン応援隊」にできることはたった一つ。命の尊さと災害に対する危機感を語り伝えていく事しかない。そのために、出会いと学び、声なき声に耳を傾けることを重ね、語り部の使命を果たしたい。銀色に輝く雪の立山連邦を仰ぎ見ながら湧き上がる思いをかみしめるのである。

プロフィール

吉友嘉久子

神奈川県横浜市出身。
北日本放送ラジオパーソナリティとして、朝の生放送番組を18年間継続その後、話力総合研究所北陸支所長、OFFICE・よしもと代表取締役を経て現在に至る。
人材開発協会認定キャリア・カウンセラー、富山国際大学特別客員教授、日本人間関係学会会員、立山カルデラ砂防博物館理事、富山県芸術文化アドバイザーその他、県や市の各専門委員、県内外企業、社会教育等に出講活躍中

主な著書

『女性のための魅力的話し方』、『きらめいて 朝!』、『巨石が来た道』〈平成8年建設大臣表彰受賞〉、『こころ草が咲いた!』、『立山の崩れと生きる』、『カルデラの赤電話』、『世界でたった一つのカレンダー』

良寛さんに学ぶ パートⅡ



全国良寛会会長 長谷川 義明

(生い立ち)

良寛は1758年（宝暦8年）に出雲崎の代々町名主を務めた橋屋山本家の長男として生まれております。当時の出雲崎は佐渡で産出される金銀を江戸に送るための陸揚げ湊の町として栄えており、山本家はその町の名主として、地域を代表する大きな役割を担っていました。良寛は名主になるべく、13歳から地蔵堂に在った狭川塾きょうせんじゅくという、江戸で学んだ大森子陽の開いた漢学塾に入り、親戚の中村家に下宿をして通い、熱心に儒学などを学びました。元来読書など独り遊びを好んだ良寛は孔子、荘子、老子など漢学の基礎をしっかりと身に着けました。この漢学の素養が後に古今の仏典を読み、唐時代などの中国古典に親しむことを可能にしたものと思われます。18歳になると父の山本以南は良寛に出雲崎に帰り、名主見習いとなることを命じます。名主見習いとなった若い良寛にとっては大変重荷であったし、性格的にも合わない仕事が多くあったようで、まもなく家出をして地元の曹洞宗光照寺に入り剃髪してしまいました。その動機については、はっきりしたことは不明ですが、領民の首切り処刑の現場に立ちあわされたり、代官と領民との対立の調整が不調となるなど思うに任せないことも多かったようです。

当然父の山本以南にとっては寝耳に水のこと、説得に努めますが、良寛の意志は固く、結局、家督を弟

の由之に譲り良寛の出家は認められます。

幸いなことに22歳のときに、光照寺の住職玄乗破了の師にあたる岡山倉敷市玉島の円通寺の住職大忍国仙師の巡錫があり、良寛は国仙師に伴われて円通寺に行くことになりました。この国仙との出会いが良寛の生涯にとって実に大きな転機になったといえます。円通寺は曹洞宗の中でも有数の修業道場であり、国仙の次の住職玄透が本山永平寺の管長になるような名刹です。国仙のもとで約12年の間良寛は血のにじむような修業に励んだようです。曹洞宗の開祖である道元（1200～1253年）の思想を深く学び、その実践を心がけることとなります。

その中心は道元の著わした主著である「正法眼蔵」という95巻に及ぶ難解の哲学書であります。良寛はこの95巻の巻名を書くことが出来たといわれるほど良く学んだようで、良寛の生涯における「清貧」「只管打坐」、「乞食行脚」、「山中独居」などの生活の思想はこの修業の時代に形成されたものと思われます。

33歳のときに国仙師から「印可の偈」を頂き修業の終了となり、師の逝去もあって諸国行脚に出ます。印可の偈は曹洞宗においては大変重要な証書であり、終生大切に保持して諸国行脚の際にも携行されたようで、最後を過ごされた和島の木村家に残されて居ります。

ぼだいざつたししょうぼう
(菩提薩埵四摂法の実践)

良寛が道元の思想の実践として大切にしたもののは正法眼蔵の「菩提薩埵四摂法」という巻に書かれている布施、利行、愛語、同事の行でありました。いわゆる菩薩行というものです。

正法眼蔵は大変難解の書物ですが、幸い禅文化学院から中村宗一氏による全訳書が出されています。現代



訳といえどもなお難解ではありますが、すこしは理解が進むように思います。その要約によると

布施；布施とはむさばらないことである。自己に執着せず他に尽くすことである。布施する人の心は目に見えないが、人々に親しく通じるのである。自分にできるだけ分相応の布施、一銭一草でも布施をする、これらの些細な布施でも、現在、未来を通じて善い報いを得る原因となる。

利行；利行とは人の貴賤にかかわらずに、多くの人々に人生生活の最善の利益りやくを与えることである。福利をはかることである。

他人の利益を考えると、自分の利益がなくなると考えるけれども、そうではない。利行ということは、自他の対立を見ない一法則である。広く自他を利益するのである。

愛語；愛語ということは、人々に接したときに、まず慈愛の心を起こし、相手の心になって、慈愛の

言葉をかけることである。一切の暴言・悪口を吐いてはならない。赤子に接するような慈悲、愛撫の心を以って言葉を交わすことが「愛語」の行いである。

同事；同事ということは、違わないことである。自分にも他人にもたがわないことである。自他の面目がおのおのに違わないことである。人間界を救うために釈迦如来が人間界の生活を営んだ。自己と他己とは一体であるということ。

良寛は日々が布施の日々であり、乞食に回りながらも時には按摩や灸を施し、子供たちには「月の兎」の話などもしてやさしさの大切なことをそれとなく論じていたものと思われます。現在でも福祉施設などで入所者に優しく声をかけたり、手を添えてやるなどの行為が体の弱った入所者に元気を与えるもとになっていますが、これらも立派な布施の行為といえます。

また子供たちとわれをわすれて遊ぶということも同事の行と考えられます。相手と同じ気持ちになって相手の行動を理解し、自分を許すと同じように相手を許す、孔子のいう「恕」の精神に通じていると思います。子供たちからも信頼されて子供たちが良寛を待ちわびるような状態だったことでしょう。

良寛は特に愛語を大切にされ、この愛語の部分の書写をして周りの人々に読みやすいようにルビをつけて差し上げていました。愛語の文の中には、向かい合っている人に愛語を語るばかりでなく、その場にはいない人についても愛語をかけることが大切だとしています。その愛語はやがて回りまわって本人が間接的にその愛語を聞くことになり、そのときには、肝に銘じ、魂に銘じるほど嬉しくなるものであるとしています。また愛語は物事が上手に出来るなどの能力が高いことをほめるだけではなく、やさしさとか親切さなども愛語の対象とすべきだとしています。確かに人の嫌がることを率先して行うとか他人の話を注意深く聞くなどの行為は、能力とは別の、人としてのやさしさやまじめさの表れでもあるのでしょうか。

良寛はこの菩提薩埵四摂法を読んで涙をこぼされたという逸話が伝わっています。



(やさしさと自然との融合)

良寛の日常は実にあるがままの生活を楽しみ、自然との融合に心がけ、生きとし生けるものすべてに限りない愛情を注いでいます。その心は漢詩や和歌、俳句などに多く残されています。古今東西の書物に学んだ詩文などからの表現を引用しながら作られていますが、それによって良寛がどのような書物を読んでいたかが知られます。そしてそれらの書物を江戸などから入手して提供していた良寛の外護者というべき国上山周辺の名主や庄屋たちの文化的水準が、相当に高いものであったことが知られます。これらの書物を借りて読み、すべてを自らのものにしてしまう博覧強記振りにも驚かされます。なにしろ多くの書籍を収納する場所もない五合庵ですし、字引や辞典もないのですからすべて暗記をしてよく理解していたものでしょう。

新潟市の西海岸日和山に建てられている良寛詩碑には次の良寛筆の漢詩が彫られています。

風定花尚落 鳥啼山更幽

かぜさだ 花な お落ち、 とりな やまさら しずか
風定まりて花なお落ち、鳥啼いて山更に幽なり

観音妙智力 咄

かんのん みょうちりき とつ
観音の妙智力なり、 咄

風が吹き止んだのに花はおちてゆく、鳥が啼くと山はかえって静かになる。

これぞ観音の不思議な知恵だ、やい、わかったか。

(定本良寛全集第一巻による)

山の林などで^{たたず}佇んでいると実に静かな、物音ひとつしない静寂な空気になることがあります。不思議なことに遠くで鳥のなく声があると、却って静けさが増すことを実感することがあります。また風もないのに花がぼとりと落ちるのを見る経験もおありのことでしょう。国上山山中におよそ30年の永きにわたって独居していた良寛にとってはこのような体験は数多くあり、実感としてこの詩を書かれたものと思います。

また約700の漢詩、1300の和歌、100の俳句が残されていますが、特に漢詩は哲学詩というにふさわしい作品が多く、良寛の悟りの境地にある姿が髣髴と感じられます。和歌は万葉調とも言うべき赤裸々な感情と自然との融合を感じさせる歌が多く含まれています。まさに良寛調ともいうべきもので、正岡子規、夏目漱石、齊藤茂吉などに強い影響を与えたと評されています。

我が宿の 草木にかくる ^{くも}蜘蛛の糸
払わんとして かつはやめける

我が宿の 竹の林は 日に^ち千たび
行きて見れども 飽き足らなくに

^{のみしらみ} ^ね 蚤虱 音を立てて鳴く 虫ならば
わがふところは 武蔵野の原



蜘蛛の糸にも、蚤、虱にも優しささえ感ずる気配り
をしています。逸話にはわざと蚊帳の外に足を出して
寝て蚊に血を吸わせた、などというものもあります。
竹はお好きだったようで、竹をほめる漢詩が残されて
います。幹がまっすぐであること、幹の中が空で腹蔵
がないことなど良寛らしい評価をしています。

盗人に 取り残されし 窓の月

五合庵にも泥棒が何回か入っているようです。良寛
はこのように盗るものとして何もない、6畳一間程度の
狭い竹の柱に菰の窓のようなわびしい山の中の庵にま
で、泥棒に入らなければならないほど生活が苦しいの
であろうかと、泥棒の身に気を使って、わざと寝てい
る布団から身を転がり出でて、泥棒に布団を引かせて
盗ませたという逸話が伝わっています。実際現在でも
五合庵に行くには、月見坂という九十九折の坂道を登
らなければなりません、大変急な坂で踏み外すと崖
を落ちるようなところ。満月が出ていたからこそ
盗人も坂を上ることが出来たのでしょう。

良寛にとっては盗人への憐れみと同時に、お月様を
盗られなくてよかったな～という感慨、私にはお月様
があるからいいや、という自然との融合の気持ちが
あったものと思います。

良寛は学ばば学ぶほどに奥が深く、国の重要文化財
に指定されている書作品をはじめ、法華経に対する深
い理解を示す法華讃などそれぞれの専門家たちからも
賞賛される高い水準にあります。厳しい修行を自らに
課して自立の生涯を送った良寛に、これからも大いに
学んで行きたいと願っています。

プロフィール

長谷川義明 略歴

1934年11月	新潟市中央区に生まれる 新潟高校卒 京都大学工学部卒 建設省（現国土交通省）勤務
1985年5月	新潟市助役
1990年11月	新潟市長当選
2002年11月	新潟市長退任
2003年5月	NPO 法人新潟愛郷会理事長
2005年9月	全国良寛会会長現在に至る
2012年5月	新潟愛郷会解散

「日本の禅宗寺院：七堂伽藍と人体表相図」



苫小牧工業高等専門学校 教授 沖本 正憲

0. はじめに

窓を目、出入口を口と見なすことがあるように、建物を人間の身体に見立てることは古くから行われてきた。近代では、サヴァワ邸に見るように、ル・コルビュジェの建築は身体の枠組を用いて頭部（屋上庭園）・胴体（2階部分の居室）・脚部（ピロティ）という人体の3層構造を垂直軸で模倣している（八束 2002）。ル・コルビュジェは多くの人体のデッサンを残しており、自分の身体空間とほぼ同じサイズを住宅構成の基準尺度「モジュロール」とした。身体モデルを導入した彼のデザインは建物の他に、都市計画や椅子製作にも見られる。このような建築の身体モデルは、人が立っている姿、座っている姿、寝ている姿の3つを垂直軸と水平軸に基づいて構成されている。

また、身体尺度を建築空間に導入するという考え方は、日本の建築でも古くから見られる。和室建築で畳は身体の高さを基準（一人一畳）としている。たとえば、禅寺で与えられるスペースは一人一畳である。「起きて半畳、寝て一畳」と言うように、修行僧には僧堂内に畳一畳分が与えられる。寝るときはその一畳のスペースで横になり、坐禅や食事のときは起きてその半畳を使用する。この身体尺度は、修学旅行における宿泊施設の部屋割りに一人（現代人の寸法に合わせ

て）1.2畳や1.5畳などと割り当てるように、一種の単位として今日でも使用されている。

本誌創刊100号で瑞龍寺の人体表相図が紹介された（杉山 2008）。永平寺や瑞龍寺など、日本の禅宗寺院では伽藍の配置を人体に見立ててきた。それは、伽藍の配置や性格について人体図を用いて弟子に説明するというものだが、寺院建築を扱う棟梁たちもこの図を用いてきた（横山 1967）。しかし、この伽藍配置を人体図で説明するというやり方の出所は不明である。本稿では日本の禅宗寺院における伽藍配置の人体表相図は、建物や都市を身体との関係で捉えるという古代から現代まで世界各地で見られるメタファー（隠喩）と同種のものであることを概観する。

1. 建築用語に見る身体モデル

建物に身体モデルを用いたデザイン例は多数ある。古くは古代ギリシア建築の柱に見られ、ドリス式が男性、イオニア式が女性、コリント式は少女を模倣した（ウイトルーウィウス 1979）。また、建物に人間のニックネームをつけた例も多くあり、スペインのマラガ大聖堂の「片腕の貴婦人」、フランスのエッフェル塔の「鉄の貴婦人」などが知られている。

沖本（2010）は建築用語に身体部位を転用している日本語と英語の例を示している。躯体とは建造物の主要構造部分を指し、日本語同様、英語でも身体を示す語 body/skeleton を当てている。また、フランス語から借用したファサード（façade）とは外観の主要部分となる面であり、一般に主要な入口のある正面のことを指す。ファサードは顔（face）と同語源である。興味深い例は、型枠を取り外して得られるコンクリート

の表面をそのまま仕上げ面とした打放しコンクリートであり、顔を意識した英語の語句 fair-faced concrete や胴体を思わせる語句 undressed concrete で表現されることがある。建物全体について考察すると、骨組 (skeleton) の他、ある建物が今後何年ぐらい使用できるかについての期待値を日本語では余命数と表現する。

建築資材を見ても身体部位と関係あるものが多い。たとえば、人間の背 (back) と腹が、背割線 (back boundary)、背圧 (back pressure)、背部通気 (back vent)、腹付盛土、腹鉄筋、腹材などに用いられている。さらに、構造物を構成する梁、柱、壁、筋交などを部材 (member) というが、英語の member とは肢体のことである。このように、建物は全体的な構造だけではなく部分や資材に至るまで人の身体をメタファーとしている。

2. 都市の身体モデル

1820年代のパリでは、人体の網状組織、血液循環などの医学的知識の影響を受け、上下水道や交通路を網状のネットワークにするという構想があった。19世紀中頃、セーヌ県知事のオスマンはパリの都市改造事業に取り組み、凱旋門から放射状に12本の大通りを造ることで、パリに平面幾何学的な区画整理を行った。このような放射状の大通りに基づく区画にしたのは、古代ギリシア哲学の影響である。古代ギリシアでは、ダ・ヴィンチの「ウィトルーウィウスの人体図」で知られるように、幾何学的な身体モデルを神殿建築に導入することで宇宙の秩序を表現した。この時代は幾何学的なシンメトリーを保つことが「宇宙～都市～建物～身体」の照応を意味し、マクロコスモス (宇宙) とミクロコスモス (人間) が唱和して美しい調を奏でると考えられたのである。

国内に目を転ざると、以前私たちの目に触れていた下水や電線、電柱、テレビのアンテナなどは、都市部では地下や建物の内部に隠されるように移設されている。都市の中を通る主要幹線道路を地下に移設する工事も行われている。下水管、ガス管、電線などインフラに関係する設備は外から見えないように地下に埋められている。さらに、ビルなどの大型建築物でも各種のケーブルや空調ダクトなどは、建物の骨組みや配管

と同様、壁の中に隠されている。このイメージは、1820年代のパリの都市計画と同様、人間の神経系や血管系といった都市のインフラに相当する器官が、体内に埋め込まれていることを想起させる (沖本 2010)。

このような都市と人体との関係について、鷺田 (鷺田・田中 2005) は、「都市論や宇宙論を考えると、身体はいつもミクロコスモスのようなかたちでメタファーとして語られ、例えば都市の排泄器官であるとか、都市の頭脳であるという言い方をしたり、あるいは村を囲む自然を身体になぞらえて、山でぐるっと囲まれた懐のところに漁村を作るというように、宇宙、自然、都市を身体 of the metonymy で何層にも構造化することは昔から行われてきた」と述べている。

3. 伽藍配置

寺院の主要な建築物を伽藍というが、その歴史は中国の後漢時代までさかのぼる。日本には仏教の伝来に伴って朝鮮半島の伽藍様式が入ってきた (青木 2000)。日本最古の伽藍様式である飛鳥寺式 (6世紀末) では、中門から発する回廊が塔と三金堂を囲み、回廊の外に講堂がある。塔は中門・中金堂・講堂を結ぶ一直線上に配し、左右に金堂がある。同じ頃に建立された伽藍様式に四天王寺式がある。そこでは中門から発する回廊が塔と金堂を囲み、講堂で閉じられている。中門・塔・金堂・講堂が一直線上に配置されている。この後、日本の仏教の発展に伴い伽藍配置は少しずつ変化する。平安時代初期には、天台宗や真言宗が延暦寺や金剛峯寺に見るような密教寺院を山奥や森林に建立し、山地伽藍と呼ばれる地形に合わせた堂宇の配置を行った。平安時代後半には、貴族や皇族の浄土信仰から阿弥陀堂を建立し、平等院に見るような池を備えた浄土庭園が造られ和様化した。

伽藍配置は、小さな寺院では本堂と鐘楼だけであるが、大きな寺院では後世に七堂伽藍 (しちどうがらん) と呼ばれる形式をとっている。七堂伽藍とは寺院として具備すべき7種の主要な堂宇のことであるが、堂宇の数が必ずしも7とは限らない。一般にはすべての堂宇が具備されていることを指すが (青木 2000)、単に

一通りの建築物が揃っている大きな寺院の伽藍配置という場合もある。『太子伝古今目録抄』（1227）によると、古くは塔、金堂、講堂、鐘樓（しゅろう）、経蔵（きょうぞう）、僧房、食堂（じきどう）を指すが、時代や宗派によってその構成は異なる。

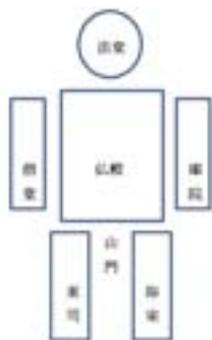
鎌倉時代に南宋で禅を学んだ二人の僧が禅宗を日本に広めた。それが1191年に臨済宗を開いた栄西と、1228年に曹洞宗を開いた道元である。禅宗建築では宋の様式が取り入れられ、1253年創建の臨済宗の建長寺に見るように、山門、仏殿、法堂を中軸線上に配し、回廊をめぐる左右対称の七堂伽藍を設置した。その構成は、法儀を行う法堂（はつどう）、本尊を祀る仏殿、正門である山門、座禅の道場である僧堂、食事の配膳や社務をする庫院（くいん）、トイレである西浄（せいじょう）、風呂である浴室の7つとなっている。

4. 禅寺の七堂伽藍と人体表相図

禅宗寺院では七堂伽藍を人（仏）の身体に喩えることがある。1246年に創建された曹洞宗の永平寺の中心建物は七堂伽藍の範として知られる（図1左）。永平寺のように古式に準じて整った伽藍を備える寺院は全国でも数少ない。永平寺の七堂伽藍を身体として捉えたとき、法堂が頭、仏殿が心臓（胴体）として寺の中心をなす。僧堂が右手、庫裡（くり）に当たる大庫院が左手と見なされる。トイレである東司（とうす）が右脚、浴室である浴司（よくす）が左脚、その間の山門が腰部を表す（図1右）。



図1



1660年頃に完成された曹洞宗の瑞龍寺の七堂伽藍についても、身体との関連が明確に示されている。「瑞龍寺伽藍復元図」の人体表相図（図2右）には、北を

上にして法堂が頭、仏殿が心、山門が隠、大庫裏（おおぐり／厨庫）が左手、禅堂（僧堂）が右手、浴室が左脚、七間浄頭（しちけんじんずう／西浄）が右脚とある（河田 1990）。「瑞龍寺伽藍復元図」は七代目棟梁の山上善右衛門吉順が所持した加賀建仁寺流系本『金山寺図』（1809?）に基づくものである（河田 1990）。同じ人体表相図は、江戸時代後期から明治時代頃の加賀建仁寺流系本『禅宗七堂之巻』に「禅宗之七堂」として掲載されている。そこでは、「法堂、佛殿、山門、僧堂、厨庫、方丈、俗室、西浄」の8つの堂宇を七堂としている。

臨済宗については、『禅林象器箋』（1741）に、「法堂－頭、仏殿－心、山門－陰、厨庫－左手、僧堂－右手、浴室－左脚、西浄－右脚」という記述がある（無著 1909）。瑞龍寺の伽藍配置のモデルとされる径山寺（金山寺）は、中国浙江省杭州市にある臨済宗黄竜派の径山興聖萬壽禅寺のことである。この径山寺は、禅宗寺院で最高の寺社格である南宋五山の一つに数えられている。

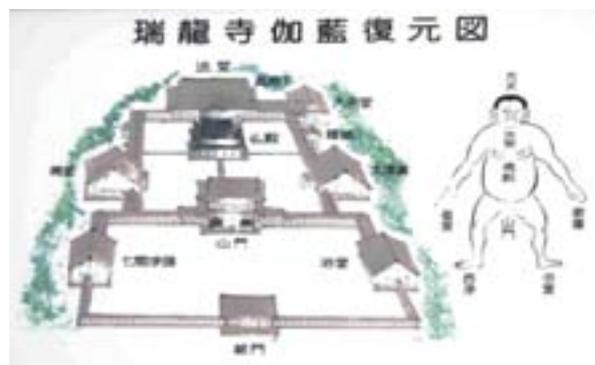


図2

曹洞宗に伝わる『禅林七堂』の切紙には、人体表相図（図3右）を示して「中華禅林に七堂の説無し、但し此の方の禅林に於いて上に図する所の者を喚んで之を七堂と謂う也」とある（横山 1967, 1976, Zhang 2000）。曹洞宗では、師匠が弟子に大法を教授するときこの図を用いて七堂の性格を説明した。また、寺院建築に関わる棟梁たち間でも用いられた。木割書『匠明：堂記集』（1608）の写本に、これと似た人体表相図（図3左）が見られる。その図では、「方丈－頭、鐘樓－左耳、経蔵－右耳、法堂－胸、佛殿－腹、山門－隠、庫裏－左手、僧堂－右手、浴室－左脚、西浄－

右脚」となっている（太田 1971）。ただし、一部に南を上にして山門を頭とした人体表相図など、これらと姿が異なるものもある（河田 1990）。



図3 (Zhang 2000: 47)

しかし、『禅林象器箋』では、伽藍配置を人体表相図で説明する出所は不明だとある。横山 (1967) は、「恐らく中国では七堂伽藍の称はなかったものと考えられる。要するにこのような説は、わが国で禅宗建築が大成し形式化するに伴って生じたものと思われるが、もちろんわが国禅刹の伽藍配置が中国の禅林とは全く無関係の独自の様式であるはずはなかろう」と述べている。さらに、横山 (1976) では、「人体表相の七堂伽藍配置は日本禅林で定形化されたもの」としている。

5. まとめ

建物や都市を人間の身体に見立てるということは、古代から現代まで世界各地で行われてきた。本稿では、日本の禅宗寺院が七堂伽藍を身体に見立てる様子を概観した。物体部分（たとえば、「机の脚」）を身体部位に見立てる動機として、位置・形状・機能の類似性が知られている（松本 2000）。しかし、古代ギリシア建築がマクロコスモスとミクロコスモスの調和を幾何学的な身体モデルで表したように、日本の禅宗寺院に人体表相図が用いられた理由として、形状の類似性の他に何らかの宗教的理由が介在していた可能性がある。このことについては、沖本（印刷中）で検討する。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、上野幸夫氏（職藝学院）、河田克博氏（名古屋工業大学）、杉山喜重子氏（高岡市観光ボランティアグループあいの風）、松浦利映氏（建設コンサルタンツ協会北陸支部）、四津谷道広氏（瑞龍寺）、頼信川氏（国立台北商業技術学院）のご協力をいただいた。お名前を記して謝意を表したい。

参考文献

- ・青木義脩 (2000) 『文化財探訪クラブ3:寺院建築』山川出版社.
- ・ウィトルーウィウス (森田慶一 (訳註)) (1979) 『ウィトルーウィウス建築書』東海大学出版会.
- ・太田博太郎 (監) (1971) 『匠明』鹿島出版会.
- ・沖本正憲 (2010) 「身体性から見た科学分野のメタファー」、『苫小牧工業高等専門学校紀要』45: 15-34.
- ・沖本正憲 (印刷中) 「禅宗様伽藍配置と身体メタファー：身体投射の動機付け」、『苫小牧工業高等専門学校紀要』48.
- ・沖本正憲、D・A・ノーマン (2010) 『科学と人間のための英語読本』開拓社.
- ・河田克博 (1990) 「建仁寺流堂宮雛形の研究」名古屋工業大学工学研究科博士論文.
- ・杉山喜重子 (2008) 「禅宗寺院国宝高岡山瑞龍寺」、『雪の音』100: 9-12, 建設コンサルタンツ協会北陸支部.
- ・松本曜 (2000) 「日本語における身体部位詞から物体部分詞への比喩的拡張」、坂原茂 (編) 『認知言語学的发展』317-346, ひつじ書房.
- ・無著道忠 (1909) 『禅林象器箋』貝葉書院.
- ・八束はじめ (2002) 「住宅を構成するもの 住宅が構成するもの：コルビュジエ VS ミース」、富永謙 (監修) 『リアリテール・コルビュジエ：「建築の枠組」と「身体の枠組」』151-182, TOTO 出版.
- ・横山秀哉 (1967) 『禅の建築』彰国社.
- ・横山秀哉 (1976) 「宋朝禅林の伽藍構成について」、『禅研究所紀要』6-7: 135-152.
- ・鷺田清一、田中純 (2005) 「都市の皮膜／身体の皮膜」、メディア・デザイン研究所 (編) 『10+1』40: 54-69, INAX 出版.
- ・Zhang, S. (張十慶) (2000) 『五山十刹図与南宋江南禅寺』東南大学出版社.

プロフィール

沖本正憲（おきもとまさのり）

1955年 札幌市生まれ
 筑波大学大学院教育研究科修了、教育学修士（筑波大学）
 民間企業（東京）の総務部管理課職員、北海道公立高等学校の
 教諭・教頭職を経て、2006年より苫小牧工業高等専門学校文系
 総合学科教授
 研究分野：言語学、認知科学

「庄内ひな街道」

中越交通株式会社 取締役営業部長 山崎 康裕

【3月3日は、何の日でしょうか？】

女の子をお持ちの家庭や女性なら直ぐに「桃の節句」や「ひな祭り」となるのですが、あいにく我が家では、男の子2名（成人しています。）の家庭の為、あまり関係の無い日でした。どちらかと言えば、語呂合わせの「耳の日（み（3）・み（3）の日）」が我が家の3月3日です。

聞いたところによりますと五節句の上巳（じょうし）の節句で、昔の中国では3月上旬の巳（み）の日に川で身を清め不浄を祓う習慣があり、その後日本に取り入れられ、不浄を祓う為に身代わりとして「人形」が考えられ、年月を重ね巧妙になりひな人形に発展したそうです。節句の日も最初は、3月の巳の日でしたが3月3日に行なわれるようになったそうです。今年は、「巳年」なのでそれにあやかり「ひな祭り」を取り上げてみました。

【酒田のおひな様】

全国各地にひな祭り関連のイベントが有りますが「酒田市の雛めぐり」を最初にご紹介致します。

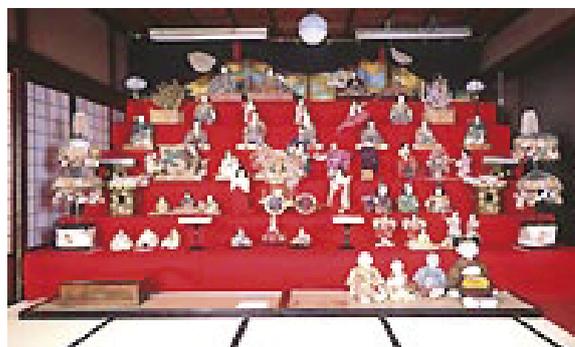
酒田市は、観光施設も多く一般的な観光旅行でも十分な場所です。本間美術館、山居倉庫、土門拳記念館、相馬楼などが有名です。

観光施設に飾られた江戸初期からのおひな様や中心市街地の各店舗が所蔵するおひな様が皆様をお待ちしています。期間中は、各展示会場によって変わりますが2月下旬から4月の始め迄となります。酒田雛街道「街あるきマップ」を参考に散策しては如何でしょうか。

①本間美術館と本間家のおひな様

江戸初期から明治までの貴重なひな人形や古典人形が展示されています。ひな人形の変遷を伺うことができます。また旧本間家本邸には、高さ2mの雛壇に古

今雛、相生雛（百歳雛）などが飾られており、古式ゆかしい五人雅楽も展示されています。また、小さな蛤に花鳥を描いた「貝合わせ」や「お化粧道具」など雛道具も必見です。



本間美術館

②相馬楼（舞姫茶屋・雛蔵書廊 相馬楼）

建物全てが美術館である相馬楼には、旧相馬屋の座敷に飾られたおひな様をはじめ、新旧のおひな様を展示して有ります。酒田の粋な文化を伝える酒田舞娘の踊りを楽しみながら味わう「舞娘弁当」も常時用意されている（要予約2日前まで。相馬楼酒田舞娘の演舞は午後2時より）。普段でも「雛蔵の間」では、おひな様が見られます。



相馬楼

③加藤家のおひな様

旧家加藤家のお内裏様（おだいらさま）は江戸後期・江戸製の古今雛。男雛43cm、女雛40cmと大型で豪華な衣装です。



加藤家

④その他の見所

旧鎧屋（酒田の豪商）、酒田市松山文化伝承館、旧阿部家（庄内一円から寄贈された雛人形約600体）などが有ります。

入場料、休館日、開催日程など詳しいお問合せは、
 (社)酒田観光物産協会まで

【鶴岡のおひな様】

鶴岡市は、酒田市同様に観光地としても有名です。

江戸時代には、庄内藩が治めていた城下町です。江戸時代に参勤交代で江戸からの文化、北前船によって京の都からの文化が入ってまいりました。当時、持ち込まれた「雛人形」や「雛道具」を庄内藩の武士や旧家によって大切に受け継がれてきました。享保雛、有職雛、古今雛など研究者が絶賛するひな人形を見る事が出来ます。また、ひな祭りの期間中は、鶴岡市の鶴岡銀座商店街を中心にひな人形や五月人形などが展示されています。

①三井家「蔵座敷」

鶴岡市の旧三井家のおひな様が蔵座敷に飾られています。名前の通り「蔵座敷」は、土蔵造り2階建ての部屋で幅二間の床の間があります。その床の間に雛段が展示されており。お内裏様の両脇に太刀持ち、下段には、雅楽七人囃子の美人が揃い、雛道具などが並ぶ雛段です。



三井家

②旧風間家「丙申堂」

「丙申堂」は、幕末には鶴岡一番の豪商「風間家」の旧宅です。大座敷いっぱい雛段が飾られる。商家の座敷に座って、ゆっくりとお楽しみ下さい。



風間家

【近くのおひな様】

山形県の酒田市と鶴岡市をご紹介しましたが山形県各地で雛人形に関するイベントが有ります。また、近県の秋田県にかほ市の「にかほひな街道」や由利本荘市の「由利本荘ひな街道」、新潟県村上市の「町屋の人形さま巡り」などがあります。

日本海沿岸東北自動車道も整備が進みましたし、無料区間も多いのでちょっと足を伸ばして隣接するひな人形を合わせてご覧になっては如何でしょうか。

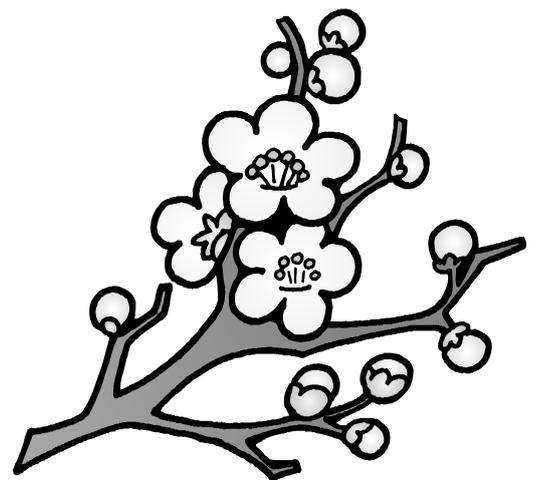
③その他の見所

致道博物館、荘内神社「宝物殿」、鶴岡銀座商店街などが有ります。



鶴岡銀座商店街

入場料、休館日、開催日程など詳しいお問合せは、鶴岡市観光連盟まで



事務局からの お知らせ

平成24年度 道路・トンネル見学会
東京港に出現した2頭の恐竜と横浜の巨大モグラ穴を見る
～東京ゲートブリッジと首都高速道路横浜環状北線工事現場～

技術部会 道路委員会・トンネル委員会

1. はじめに

当協会の道路委員会、トンネル委員会共催の見学会が東京・横浜の地で開催されました。曇り空でしたが、猛暑の名残りなのか、9月の末とはいえまだ夏の暑さでした。

見学の対象は今年開通したばかりの東京ゲートブリッジと、工事最盛期を迎えた首都高速道路・横浜環状北線（略称：きたせん）の工事現場です。

「東京ゲートブリッジ」からは恐竜がイメージされます。そして「きたせん」のシールド機はあたかも巨大モグラです。以下に見学会の概要を示します。

■日 時 平成24年9月28日(金) 9:30～17:00

■見学内容

午前 東京ゲートブリッジ見学

午後 首都高速道路・横浜環状北線現場見学

■参加者 14名（うち女性1名）

■行程

9:30 丸の内 鍛冶橋駐車場に集合

10:00～11:00 東京ゲートブリッジ見学

橋梁の橋詰の若洲海浜公園でバスを降りて見学

12:00～13:00 横浜中華街で昼食

14:00～15:30 首都高速・横浜環状北線現場見学

新横浜 PR ルーム（きたせん Info.Plaza）で説明を受け、その後地下の現場に入る。

①「きたせん」紹介ビデオ、工事概要の説明（首都高速道路株式会社横浜工事事務所小嶋所長の説明）

②開削トンネル内、シールド坑内、立坑などを視察（小嶋所長の説明による。現場での工事説明は全員に配布されたレシーバーが受信し、そこからイヤホンで聞く。現場の騒音にかき消されることなく明瞭な音声で聞いた。）

③きたせん Info.Plaza に戻り質疑応答

17:00 東京駅で解散



写真1. 東京ゲートブリッジを若洲側より望む

橋梁概要

- ・橋長2,618m
- ・トラス橋部分の最大支間長440m
- ・LEDでライトアップ
- ・片側に歩道があり、エレベーター、階段で昇降
- ・2012年2月12日に開通



写真2. きたせん Info.Plaza で説明を聞く

2. 横浜環状北線の事業概要

(1) 事業の目的

横浜環状北線（以下、北線と呼ぶ。）は、横浜市の交通ネットワークの骨格を形成する「横浜環状道路」の北側区間、第三京浜「港北インターチェンジ」から首都高速「生麦ジャンクション」をつなぐ延長8.2kmの自動車専用道路です（図1 参照）。



図1. 横浜環状道路の事業概要図

北線の建設により、横羽線、湾岸線が第三京浜道路とつながり、新横浜をはじめ、羽田空港や東京湾アクアラインなどへの行き来が便利になります。また、横浜環状北西線が整備されると、より一層東名高速道路方面への交通利便性の向上が期待されるとのことです。

さらに、交通の流れがスムーズになることで、車からの排出ガス量が減少することにより、次のような環境改善が見込まれています。

- ・ 二酸化炭素（CO₂）年間 約54,000t 削減
- ・ 窒素酸化物（NOX）年間 約37t 削減
- ・ 浮遊粒子状物質（SPM）年間 約2t 削減

(2) 計画諸元

北線の計画諸元は次のとおりです。

- ・ 延長：約8.2km（うちトンネル部約5.9km）
- ・ 計画交通量：40,000～54,000台／日
- ・ 事業費：約3,387億円
- ・ 完成予定年度：平成28年度
- ・ 車線数：往復4車線
- ・ 設計速度：60km／時

(3) 用地取得の方法

北線の用地取得の方法は「高架部、地表部、開削部」と「トンネル部（シールド区間）」で異なります。前者では工作物の範囲の用地買収を行っているのに対して、後者では道路を保護する上下、左右の一定の範囲で“区分地上権”を設定し、原則として土地の地下部分のみを使用しています（図2 参照）。

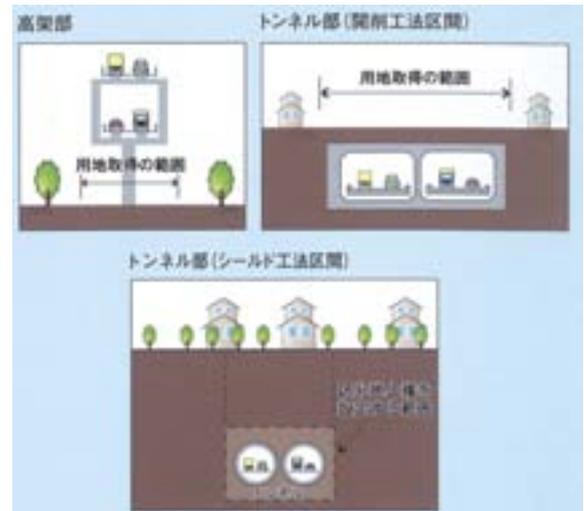


図2. 用地取得の方法

(4) 工事の特徴

北線の路線延長8.2kmの約7割（5.9km）をトンネル構造にしており、さらに地域への工事の影響を最小限に抑えるため、トンネル区間の大部分にあたる5.5kmの長距離をシールド工法により建設しています（図3 参照）。

シールドマシンは、新横浜にある発進立坑から掘り始め、子安台にある到達立坑に向けて掘り進めています。シールドマシンが掘削する箇所は、そのほとんどが上総層群と呼ばれる比較的堅固な地盤であり、工事による地表面への影響は現れていないとのこと。

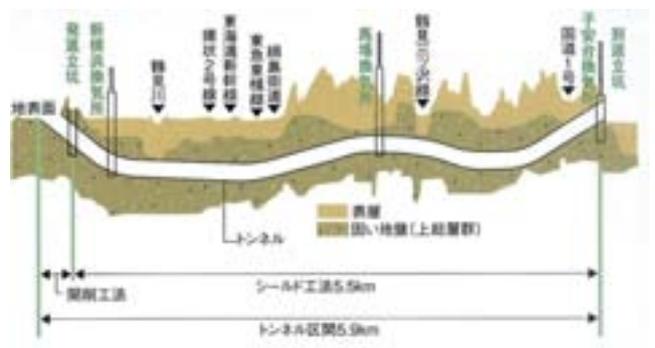


図3. トンネル区間縦断面図

また、北線では上下線2本のトンネルを2基のシールドマシンで、新横浜の立坑から子安台の到達立坑に向けて同時に掘削しています。シールドマシンの諸元は次のとおりです。

- ・大きさ：外径12.5m
- ・長さ：11.5m
- ・重さ：2,000t（ジャンボジェット機の約10倍）



写真3. 掘削開始直前のシールドマシン

3. 工事見学内容

(1) シールドマシン掘進状況

見学では、シールドマシンの実物を見ることはできませんでしたが、PR ルームにて首都高速(株)神奈川建設局職員より説明していただきました。シールドマシンは、地下約30mの立坑で、1機の組み立てに3ヶ月半を要したとのことでした。

シールドマシンは、外回りと内回りの2本同時に掘進を進めており、見学時では馬場出入口付近まで到達しているとの話でした（図4 参照）。

また、シールドマシンの愛称を一般から募集して決定したとのこと、それぞれナッピー号、コピー号と名付けられていました。



図4. シールドマシン掘進状況（9月末時点）

(2) シールド坑内視察

シールド坑内の視察は、発進立坑である新横浜出入口から新横浜換気所までの往復約1kmを徒歩で行いました。

シールド工法を採用している区間は、5.5kmの長距離掘進であり、掘削土については、ベルトコンベアに載せられ、トンネル坑外に運び出されていました（写真4 参照）。



写真4. シールド坑内状況

また、トンネルのセグメントは、地盤・地下水圧を考慮して設計され、耐久性・耐火性に優れた「SFRCセグメント」を採用していました。

SFRCセグメントには、コンクリートに鋼繊維とポリプロピレン繊維を混入した、耐火型鋼繊維補強高流動コンクリートが用いられているとのことでした。

このコンクリートは耐久性・止水性に優れるとともに、万一、トンネル内で火災が発生した場合も、セグメントの損傷を防止し、トンネル内の安全が確保されとの理由から採用に至ったとのことでした。

さらに、セグメントに強度を要する一部の区間では、鋼製のセグメントも用いられていました。



写真5. SFRC セグメント



写真7. Info.Plaza の玄関向いの航空写真前で記念撮影



写真6. 鋼製セグメント

4. おわりに

遠方での見学会ということで、参加者が例年より幾分少なかったようです。参加できなかった人には申し訳ないですが、世界最大級、かつ世界最先端技術による現場をとっても興味深く見学でき、とても有意義な一日でした。きちんとデザインされた海上の巨大な橋梁と、地中という特殊な現場における土木の景色は参加者の脳裏に強く焼き付けられたに違いありません。

多忙な中、説明して下さった首都高速道路株式会社横浜工事事務所長の小嶋所長および準備段階からお世話くださった渡邊道路委員長、藤本道路委員に感謝の意を表するとともに、「きたせん」が一日も早く無事故で完成することを祈念し、ここに報告を終えます。

以上

(文責：麻田、須貝、今度)

平成24年度 新潟県土木部との意見交換会の概要

対外活動部会・新潟地域委員会

■日 時：平成24年10月9日(火) 14:30~17:00

■場 所：東急イン 3F「春日の間」

■出席者：

【新潟県】田宮土木部長。大野技術管理課長、原山道路管理課長、岩澤道路建設課長、美寺河川整備課長、小泉砂防課長、佐野長岡地域整備部長、新保上越地域整備部長、鈴木佐渡地域整備部長、佐藤新発田地域整備部長、丸山三条地域整備部長、藤井南魚沼地域整備部長、久須美糸魚川地域整備部長

【協会】小野塚新潟地域委員長、阿部委員、上田委員、船谷委員、山岸委員、中俣委員、高田運営委員長、大平委員、涌井委員、田辺総括部会長、横山技術部会長、青木広報部会長、松浦事務局長

■配布資料：会議次第（席次表）等、会員名簿、建設コンサルタンツ協会北陸支部の品質向上の取り組み、「Made in 新潟」新技術展示・発表会パンフ

■各代表挨拶要旨：

○小野塚委員長

- ・田宮土木部長以下皆さんの知事選最中における出席に対するお礼。
- ・日ごろの皆さんからの当協会活動に対してのご支援、ご協力・ご配慮に感謝している。
- ・会員各社を取り巻く経営環境は厳しいが、与えられた使命を果たしている。
- ・この意見交換会は平成16年度からスタートしている。今回9回目で初参加の方もいるが当会の実情を知ってもらい良い機会と考える。
- ・協会支部会員数は61社、うち県内会員数は11社となっている。
- ・平成19年10月に制定された県条例（地域企業育成条例）に基づき県内企業に特段の配慮を

お願いしたい。

- ・今年も上越の地すべり災害に始まり、7月には佐渡で豪雨災害が発生しており、技術職員が減っている中大変ご苦労されていると思う。
- ・当協会もこれまでの多くの災害に対し、土木部のよきパートナーとして使命を果たしたと自負している。
- ・今回は、「設計成果の品質確保」についてを初の議題としている。
- ・成果品の品質確保は、良質な社会資本整備のためには一番重要と考えている。
- ・現状を見れば、成果品に問題があるケースが多々あり、発注者にはご迷惑をかけている。
- ・良い成果品は受注者の努力が重要であるが、受注者努力だけでは限りがある。
- ・よい成果品の提供には相応の時間と費用がかかるため、適正工期の確保、納期の平準化、適正な設計単価のアップをお願いします。
- ・本日も議題に沿って意見交換、要望をさせていただくが、協会が置かれている厳しい現状を察し頂き、良きパートナーとして地域に生き残っていけるよう、また実りある意見交換会となるよう祈念している。



北陸支部

○田宮土木部長

- ・豪雨・豪雪災害のため、2年ぶりの参加となったが、災害対応での貴協会のご支援、ご協力

に感謝している。

- ・平成16年の水害と昨年の水害を比較するとかなり違いが出ている。場所によっては倍以上の降雨量、被災範囲の拡大も見られたが、予算の減少に伴いマンパワーも減っているため災害時の対応スピードが落ちていると感じている。
- ・その原因は、土木部技術職員の減少や企業の経営体質のスリム化によるものと考ええる。
- ・災害時には、測量業者、コンサルタント、ゼネコン、発注者等が連携していく必要があると痛感した。相互に情報の共有や連携が必要と考える。
- ・そうした中、率直な意見交換会の場の設定に感謝している。
- ・発注者、受注者ともに、現場に出られないことや、経験不足等によって設計ミス、現場に適應しない成果が生じていると考える。良い成果品となるには相互の協力が必要と考える。
- ・本日の意見交換会によりこれからの両者の業務が円滑に進むことを期待している。また、実りある議論ができることを祈念している。



新潟県土木部

【報道関係者退席】

【高田委員長が議題の概要と進め方を説明】

【次に、中俣委員が議題の提案趣旨を説明し、議題の下には県土木部の意見・説明等の概要を記載してある】

■意見交換概要：

1. 土木部予算について

(1)平成24年度予算の概要と執行状況

- ・平成24年度県土木部の予算編成にあたっては、以下の方針を基本としている。

①県民のくらしと命を守る災害に強いふるさとづく

りの推進

②自立した活力のある地域づくりの推進

③地域を支える建設産業の振興

- ・国の公共予算は、伸び率で102%、県の一般公共事業は559億円 対前年比106.9%確保したが、国の内示はこの約9割に留まっている。
- ・県単公共事業は120億円 対前年比100.0%
- ・予算執行状況は上期目標80% → 約6割（8月末現在）
- ・内委託費関係は概算91億円に対し契約済み51億円（約56%）
- ・未契約繰越額は205億円であり、約95億円は契約済みとなっている。
- 残りは早期執行と変更増により消化する。事故繰越は基本的に想定していない。

(2)平成24年度土木部関係補正予算について

- ・6月補正6億円（国川の地すべり対策、爆弾低気圧災害関連）
- ・9月補正165億円（新潟福島豪雨災害関連）
- ・主な内容は、災害復旧助成費98億円、災害復旧63億円である。
- ・合計：171億円増額補正した（土木部総予算1670億円となり当初比で111.3%）

(3)補修系の点検、設計関係の今年度の概要とこれからの動き

	橋 梁	トンネル	シェッド シェルター	舗 装	防 災
23年度	0橋	149基	52基	2,500km	800ヶ所
24年度	250橋	36基	47基	2,500km	900ヶ所
全 体	3,812橋	185基	351基	5,000km	6,300ヶ所

【橋梁点検】点検サイクルは、10年を基本として、重要度によっては5年サイクルとしている。今後は300橋／年を点検していきたい。

【トンネル・シェッド】24年で初回点検完了。今後点検サイクルを検討したい。橋よりは長いサイクルとなる模様。

【舗 装】初回点検が完了し、これまでの点検結果を踏まえ今後の方針を決定したい。

【防 災】H25は、1,500箇所を点検を予定しており全箇所完了予定となる。継続監視が必要な箇所は工法も含め今後考える。

(4)平成25年度予算の方針・傾向について

- ・25年度当初予算編成方針は、知事選後にはっきりするが、部局長枠は対前年比1.0の予定。

(5)新潟・福島豪雨の進捗状況と残事業について（河川整備課長が代理説明）

- ・委託関係 第2四半期で約7割執行済み、一部はH25に先送りとなるが、年度内には発注する予定である。今後の設計委託発注予定額は約6億円。

2. 地域調達について

(1)「地域企業育成条例」に対する土木部の取組状況

- ・H19年10月施行の「新潟県中小企業者の受注機会の増大による地域産業の活性化に関する条例」の主旨を踏まえ可能な限り県内業者に発注している。

(2)工事請負・設計委託における県内企業、県外企業別受注状況の最新の推移

県内企業調達率の推移（設計委託分）

	19年度	23年度	H19→H23
件数	68.6%	75.0%	6.4%
金額	57.6%	65.1%	7.5%

		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24 (7月末)
工事	件数	94.7%	94.8%	95.0%	95.5%	95.9%	97.3%	97.8%
	金額	83.0%	89.9%	91.8%	92.0%	91.5%	90.0%	94.0%
コンサル	件数	68.9%	68.6%	73.4%	75.3%	80.9%	75.0%	77.8%
	金額	60.0%	57.6%	62.5%	65.1%	67.4%	65.1%	68.6%

* 網掛け箇所は、過年度の意見交換会で公表された数値であり、今回公表の数値ではない。

- ・工事に比べコンサルの比率が低い理由
県内業者の数が少ない。入札参加資格者数でみると県内業者の割合が工事は8割、委託業者は2割強（114社／439社）となっている。

〈職員及び市町村への周知〉

- ・職員に対する研修の中で階層別の研修に際しては、建コン協会、建設業協会にいる土木部OBの方からも業界の実態やなぜ取組みが必要なのか等を話してもらうなどして、職員の意識改革を図っている。今後も引続きやっていきたい。
- ・市町村に対しても、最低制限価格制度の導入、県内企業の優先活用や予定価格の事後公表について、フリートークの場や国も含めた発注者協議会等の機会を通じて要請している。
- ・建設産業の役割、利益率の実態等を話し、県と一

緒になった取組みを働きかけている。

- ・必要に応じ係長や補佐を市町村に派遣し、取り組み要請を行っている。
- ・県の立場としては、要請はできるが強制はできないので、まずは理解してもらうよう今後も努めたい。

3. 入札・契約制度等について

(1)落札率の最近の推移（コンサル業務）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24末
委託落札率	89.9%	89.3%	87.9%	90.8%	93.5%	93.9%	93.8%

* 網掛け箇所は過年度の意見交換会で公表された数値であり、今回公表の数値ではない。

- ・H19.7 最低制限価格制度の導入により制限価格を70%に設定した。
- ・H22.1 に下限値を90%に引き上げた。
- ・H23.4 に下限値を91%に引き上げた。

(2)プロポーザル方式・総合評価方式について

- ・H13年からプロポーザル方式を導入。
- ・H20年に事務手続きを簡素化した簡易方式を導入。
- ・これまでに各年度1～5件程度実施しており、H24は、2件実施した。
- ・受発注者ともに事務負担があることから、無理な適用・拡大は考えていない。
- ・実績の少ない業務、大規模事業で方針決定に関わる業務、川上にある計画検討業務、歩掛のまったくない業務等プロポーザル方式にふさわしい業務に適用したい。
- ・職員のプロポーザルの認知度が低いことから、制度の理解や適用した場合の効果等の周知に努めたい。
- ・先日（6月20日）技術管理課、地質業協会、建コン協会の3者が、総合評価に関する意見交換会を行い、実情・課題等を把握した。
- ・県は指名競争を基本としている。H19からは最低制限価格を91%に設定しており、国や他県と違って不適格業者の問題や低入札等の心配が少ないため、早急に導入する状況でないと認識している。
- ・一方、設計成果の品質確保の観点から、その一方策として総合評価導入もあると考える。
- ・今年度中には品質確保に効果のあるものから取り組みたい。

4. 業務の円滑な執行について

(1)片務性の解消と双務性の向上について

【協会側から H24.2.14に小野塚委員長が土木部担当職員に説明した内容の一部を紹介し、その後の県側からの意見等は次のとおり】

- ・現場では、機会ある毎に片務性については話をしている。
- ・長い歴史の中でできたこれまでの風土を変えるにはかなり時間がかかる。
- ・片務性の解消、双務性の向上には、きちんと言い合えるような関係にする必要がある。
- ・初回打合せ時に業務内容を相互に確認する等、受発注者双方の努力が必要と考える。

(2)設計成果の品質確保について

【協会側から H24.3.7に行った当協会地域委員と建設業協会県 OB との意見交換の概要と配布資料「建設コンサルタンツ協会北陸支部の品質向上の取り組み」に基づきその概要を説明し、その後の県側からの意見等は次のとおり】

- ・建設業協会、測量業協会ともこれまで意見交換会を行ってきた。
- ・今年7月に、建設業協会の現場代理人と意見交換を行った。その時の現場代理人51人のアンケート結果の一部は以下のとおりである。
- ・多かった意見は、用地未了や物件移転未了等の準備不測に対する意見。
- ・次が、仮設関係、測量、設計不備に関する意見であった。約66%の意見。
なかでも、設計は合わないのが普通とか現場に即していない、修正等による負担があるという厳しい意見があった。
- ・施工者からは発注者だけでなく、設計者に対する不満が多く出ている。
- ・照査の不十分さを指摘する意見や照査体制の改善意見も出ている。
- ・発注者側も、照査能力や時間不足といった課題を抱えているので、受注側の照査体制充実を期待する。
- ・ミスの原因は人的資源不足という理由にしないで欲しい。
- ・構造計算等における入力ミスなどの基本的なミスを根絶して欲しい。
- ・年度内をめどに、あまりコストをかけずにかつ効

果のあるミス・エラー防止策には何から取り組むべきかの検討をしている。

- ・建コン協会の意見をききながらまとめ新年度にはできるものから取り組みたい。

(3)繰越制度の確実な実行について

【協会側から国の調査結果（履行期間と不具合の発生状況）を紹介し、業務の平準化と品質確保の観点から、繰越制度の活用についてあらためて要望した】

(4)成績評定の課題と今後の活用方策について

- ・成績評定は、H18から試行し、H20から本格実施、H22に一部ルール改定、H23に対象額を200万円に拡大した。
- ・評価の実績は、H22年度は436件（測量含み）で77.5点、H23年度871件（内コンサル業務487件）で77.2点
- ・県内、県外企業別の点数のバラツキはあまりないが、業務別に見ると50点台から90点台とかなりバラツキがある。
- ・課題は、評定は国の要領を準用しているが、評定者によるバラツキが生じやすいとの指摘がある。
- ・評定結果については、受注者に通知しているが、活用されていないので、その点が今後の課題といえる。
- ・バラツキの問題は批判もあることから、目線の統一ができるような評定のマニュアル作成等の検討を考えている。
- ・活用は、成績優秀者の表彰、不良者のペナルティー、総合評価への活用が考えられるが、成果品の品質確保の一貫して考える必要があり、今年度その検討を行いたい。

5. 各地域機関の現況と課題・情報提供

【長岡】

- ・昨年7月災害における査定準備等の対応に対するお礼。
- ・復旧工事の単災は100%発注済み、約7割完成し降雪前には残りも完了予定。
- ・塩谷川助成事業は97億円で、上流部河道設計、橋4橋、取水堰、樋門等6箇所の発注を予定しており、今年度から来年度の早い時期に発注したい。
- ・柿川床上浸水対策事業は91億円で、H24から発注

が始まり、今後5年程度で順次発注する予定である。
・柿川的设计関係は、特殊工法のため大手の設計となっているが、地元企業が出来るものも今後発注される。

【上越】

- ・H23の上越整備部の事業費：65億円
〔内測量試験費：8.1億円（内設計関係約4億円）〕
- ・発注者の責任でやることになっている他機関協議の結果を受注者に連絡することを忘れていた場合があるので、受注者のほうからこころあいをを見つけ催促して欲しい。
- ・ミスが起こるのはやむをえないとしてもその後処理をどうするかが重要であり、致命的なミス防止に労力を費やすほうが良いのではないか。

【佐渡】

- ・H24.2.8の地震、4.3-4爆弾低気圧災害、7.15集中豪雨災害時における協力お礼。
- ・査定総額は約20億円で整備部予算の約半分を確保できた。
- ・職員欠員5名、若い職員構成となっており、初回打合せ時には代理、課長の同席を指導している。
- ・設計委託予算の関係は、H22：2.5億円、H23：3.7億円、H24.9末：2.7億円となっており、県内受注割合は、H23で約8割、H24で74%となっている。H24の今後発注見込み額は1～1.5億円が予定されているが、大半は県内向けとなっている。

【新発田】

- ・管内のH24予算は、約55億円で、このうち胎内ダム予算が22億円となっている。主要事業は奥胎内ダム事業、福島潟、荒町BP（H24開通予定）等である。
- ・職員には打合せ簿のタイムリーな整備を指導したいのでご協力をよろしく。
- ・目に余る片務状況があれば、課長や副部長、あるいは直に当方に上げてほしい。

【三条】

- ・三条地域整備部の予算は、
H23：110億円（内70億円繰越）
H24：96億円（内災害70億円）
- ・委託関係予算は、
H23：3.3億円（県内と県外の割合1：1）
H24：約4億円（県内と県外の割合1：2）

今年の県外が多いのはダム事業の関係と思う。

- ・ダム関係業務でプロポーザルを2件発注した。
- ・現在災害関係の護岸設計を17件発注しており、県内が8社、県外が9社の受注割合となっている。
- ・災害担当者の意見として、だめな業者は、現場を良く見ていない、言われた事しかしない、内部照査をしていないと思われるところと言っていた。一方良い業者は、広く情報収集し設計に反映させる意識の高いところ、外部組織と打合せする時に同席を求めてくるところは信用が高いと言っていた。
- ・まとめると、心配どおりのコンサルというのと、心配したけど安心できるコンサルということになった。

【南魚沼】

- ・昨年度の水害の早期復旧を最大の優先課題としているが、業界のスリム化により思うように進捗していない。
- ・単災は、昨年度中に100%発注し、上半期で約半分完了した。
- ・当地区では、砂防関係の災関事業が多く、雪も多い中設計業務を早期に完了いただき感謝している。また、堰堤の適地でないようなところにも計画せざるを得ない場合もあり苦労の跡がうかがえる。
- ・1件を除き本省協議も完了し、発注作業を進めている。
- ・H23の県内の受注割合は85%で、今年度上半期時点でも約8割となっている。

【糸魚川】

- ・昨年度末に7橋の補修設計を4件にまとめて発注した。
- ・今年度は、道路、砂防業務を中心に発注している。
- ・道路は、松本糸魚川道路の関係で、環境調査やJR交差部の設計は、県外業者となっているが、それ以外は県内業者となっている。
- ・今後も橋梁補修の断面修復設計が見込まれ、新工法が提案されると思われる。若い職員が多いことから、各社が提案する提案内容や考え方をていねいに説明して欲しい。
- ・当管内でも橋梁下部工設計において照査不十分と思われるものがあつた。

【道路建設課】

- ・日沿道は、現在都市計画決定のための協議と環境

- アセスを進めており、早期決定を目指している。
- ・来年度予算は、高速道のインターアクセス道路等に重点的に予算付けされる見通しである。
 - ・維持管理予算に比べて、改築は大変厳しい状況にある。供用開始間近のところ等効果のすぐでるところに重点化される見通しである。
 - ・集中投資、コスト縮減を行いながら道路事業を推進したい。

【砂防課】

- ・国川は地すべりということで、委託関係は地質調査業協会が中心となっている。
- ・災関事業は、約24億円の採択で、6月上旬に始まり、天候にも恵まれ、道路から近いこともあり順調に進んでいる。降雪期前には、概成する見通し、来年度は、仮設の撤去等の作業となる。
- ・砂防ダム設計は本省協議が必要で、最近は、ダム構造も多様化しているが、経済性のみを重視するのではなく、施工性なども十分考慮した設計をお願いしたい。
- ・H24の砂防事業は62ヶ所実施している。災害の関係もあり、内新規は9ヶ所となっている。H25も5-6ヶ所新規を予定している。

【最後に高田運営委員長より有意義な意見交換に対してのお礼と今後も良きパートナーとして協力していく決意表明により意見交換会は終了した】

平成24年度 北陸地方整備局との意見交換会の概要

対外活動部会

- 日時：平成24年10月24日 15時30分～17時
- 会場：チサンホテル&コンファレンスセンター新潟
2F「湯沢の間」

■出席者：

北陸地方整備局：

橋場北陸地方整備局長
木村企画部長
岡村地方事業評価管理官
蚊爪技術調整管理官
今野技術開発調整官
佐藤河川情報管理官
倉重道路情報管理官
山岸企画部技術管理課長

協会北陸支部：

寺本北陸支部長ほか副支部長2名
藤巻顧問
高田運営委員長ほか運営委員5名
坂上対外活動部会監事ほか対外活動部会員4名
田辺総括部会長
横山技術部会長
青木広報部会長
松浦事務局長

■挨拶

○橋場局長

- ・今年、建設コンサルタンツ協会北陸支部創立30周年と言うことで、創立以来、北陸地方整備局の業務を支援していただいたことに感謝。北陸地域の社会資本整備を進める上で重要な役割を担っていただいております、今後ともご支援を賜りたい。
- ・昨年は、「東日本大震災」や「7月に発生した新潟・福島豪雨災害」などの大きな災害に対する支援についてお礼を申し上げます。
- ・入札契約制度について、低入札は平成22年度に履行確実性の評価の導入により発生件数、

発生率は大幅に低下した。

- ・総合評価落札方式による契約は、今後もウエイトが高くなっていく。より良い制度にしていくために、業界側からも改善意見の提案をいただき、技術力と受注金額が適正に評価される制度にしていきたい。
- ・広報活動について、東日本大震災等では建設業界の多くの方が昼夜を問わず苦勞して対応された事は、業界では知られているところであるが、一方で一般の国民の方々には正当な評価をしていただけていないと言う意見もある。広報活動のあり方についても検討していきたい。
- ・若手人材の確保と育成では、若い人が魅力ある職場とするために、若い人の労働力に見合った対価の支払いシステムについても考えていきたい。
- ・これからの建設コンサルタントの役割に期待するものとしては、今後も発注者側の職員数は減少傾向にあると推測。近年建設コンサルタント会社の資質・技術力は大幅に向上しており、これまで官側が担っていた業務を含めたコンサルタントマネジメントと言う考え方が重要になって来ると思われる。



北陸地方整備局

○寺本支部長

- ・公共事業関係費の長期間にわたる縮減によ

り、建設コンサルタント業の受注環境は以前にも増して厳しいが、履行確実性評価等の導入により、近年、低価格入札の減少に効果を発揮していることに感謝。

- ・一方で、平成23年度の全国の直轄コンサルタント業務の平均落札が80.6%、北陸は81.8%と若干上回っているものの、社会資本整備の品質の根幹をなす業務成果の品質を高める上で、適切な業務コスト調査に基づく報酬価格の適正な設定を図る「調査基準価格の引き上げ」が不可欠。
- ・建設コンサルタント業は、社会的役割の高い公共事業を主体に活動。しかし、事業量の減少が続き、技術者の確保、人材育成、技術の伝承等多くの課題が発生。
- ・そのため、魅力有るコンサルタント業に向けて、相互協力により社会資本整備の重要性と合わせて社会認知度を上げる戦略的な広報活動への取り組みが必要と考えており、社会的に幅広い交流関係のある行政機関の活動に期待。



北陸支部

■意見交換

1. 入札契約に関する事項

(1)技術力を重視した発注方式の拡大について

プロポーザル方式、総合評価方式（1：3等）の拡大及び簡易（特別）型総合評価方式の発注確保についてお願いしたい。

【回答】

①技術力を重視した発注方式の拡大

- ・平成23年度の総合評価落札方式の発注件数は全体の55%、プロポーザル方式は34%であり、価格競争から技術力競争へシフトしている。
- ・平成23年6月改訂のガイドライン（本省）の例示を参考に、発注方式を定めており、斜めライン上に

ある業務は、技術力重視とするよう配慮している。

- ・本省からは、これまでの実績を見ながら制度を検証していくとともに、新たな業務内容の追加や新たな分野の追加の必要性を検討していくと聞いている。

②総合評価方式（簡易特別型）の発注の確保

- ・総合評価方式（簡易特別型）は、平成22年6月より1,000万円に満たない土木（調査・設計）業務を対象に試行してきたが、平成24年9月より低入札を抑止し品質確保を図るため、履行確実性評価の対象にできるよう土木に加え測量、地質も対象に試行を拡充した。

(2)技術評価基準の改善

予定技術者の業務成績の評価基準において、実績重視の観点から配点の見直しを検討願いたい。

【回答】

- ・北陸地整の場合、平成23年度の土木コンサルタント業務の評定結果は、74点から78点が大半であり、配点見直しによる効果は低いと考えている。

(3)手持ち業務量の基準日の要件改善

次年度に跨がる第4四半期発注業務の手持ち業務量の評価基準日要件の改善をお願いしたい。

【回答】

- ・年度末頃に契約し次年度に跨がる業務については、手持ち業務量の特定日を4月1日として評価することとしたい。

2. 品質確保に関する事項

(1)設計図書・参考図（施工図）の区分と扱い

設計者が工事費算出のために作成する参考図について、施工者が自ら作成しなければならない施工図に活用するため、注文を求めてくることがあるので、改善をお願いしたい。

【回答】

- ・特記仕様書等へ「施工計画に関する参考図書の範囲」について明確に示すよう今後とも徹底していく。
- ・詳細については、実態調査をおこない、「業務品質確保に関する研究会」等で議論を進めていきたい。

(2)業務打合わせ

業務の打合せ回数が「〇回以上」と機械的に明記されている場合があるので適切に対応願いたい。また、管理技術者の出席も適切にお願いしたい。

【回答】

- ・打ち合わせ協議は、業務の規模、重要度、複雑さを考慮し、業務の主要な区切りで設定するもの。
- ・特記仕様書へ「打ち合わせ回数、又は主要な区切り」の記述を徹底する。
- ・例えば、「打ち合わせ回数は、着手時、業務途中、完了時の○回を予定している」と記載するなど。
- ・管理技術者の出席については、業務によりケースバイケースで考えたい。
- ・詳細については、実態調査を行い、「業務品質確保に関する研究会」等で議論を進めていきたい。

(3)照査

①照査技術者の資格及び実績要件

入札説明書における照査技術者要件の不明確・不整合、照査技術者の実績要件の追加について改善願いたい。

【回答】

- ・入札説明書と所定の様式の不整合については、ミスのでないよう所内チェック体制の確保に努めたい。
- ・照査技術者の実務要件は、本省ガイドラインを基本とする全国統一的な目安であり、管理技術者又は担当技術者の過去10年の同種・類似業務の実務経験を有する者としている。

②照査に要する費用の改善

【回答】

- ・照査の時間、費用については、国土交通省においてフォローアップ調査を実施し、その効果を検証すると聞いている。

(4)橋梁補修設計技術向上の取り組み

設計と現場条件の不都合等の改善に向けて発注者・設計者・施工者からなる組織を構成して検討しては如何か。

【回答】

- ・6月に「道路橋関連資料の保存容量（案）{道路局国道・防災課}」が発出され、今後の橋梁工事の情報は確実に保存されるようになった。
- ・工事内容や課題等の共有化と対応策の検討等については、発注者、施工者、設計者からなる「工事連携会議」で対応しているが、引き続き設計成果の向上への努力もお願いしたい。
- ・北陸橋梁保全会議（仮称）」は、「産学官」が橋梁保全に関する調査、研究、補修補強設計、施工技術、材料、維持管理等についての、情報交換、発

信する共通のプラットフォームであり活用することも十分考えられる。

3. 経営安定と設計技術者の環境改善に関する事項

(1)業務の平準化発注と履行期間の確保

さらなる業務の平準化に向けて、国庫債務や繰り越しの積極的な活用と履行期間の十分な確保をお願いしたい。

【回答】

- ・業務の国庫債務や繰り越しは、予算執行上やむを得ない事由がある場合にできるとされており諸事情等を踏まえ適時判断してまいりたい。

(2)履行期限延長の削減方策

さらなる3月末工期及び延期の改善をお願いしたい。

【回答】

- ・平成23年度の工期の平準化の取り組みは、平成24年3月末納期を当初5割削減とする計画としたが、結果は工期変更等による影響で70%となった。
- ・平成24年度は、9月末現在で計画33%に対し、40%の状況となっている。今後、年度末にむけて変更等が予想されるが、できるだけ3月に納期が集中しないよう努力する。

4. その他

(1)工事連携会議

工事連携会議用の資料要求があった場合は適切な費用で処理をお願いしたい。また、工事連携会議において設計変更が求められた場合も適切な費用をお願いしたい。

【回答】

- ・工事連携会議は、原則、全ての工事を対象に実施しているところ。
- ・会議に要する費用の支払いは、平成23年度についてはコンサルタントへ直接支払う手続きをすること、並びに新たな検討・資料作成が発生した場合、別途支払うとする事などを事務所に周知している。
- ・本件に関しては、実態調査を行い、「業務品質確保に関する研究会」等で議論を進めていきたい。

平成24年度 新潟市との意見交換会の概要

対外活動部会・新潟地域委員会

■日時：平成24年11月13日(火)15：30～17：00

■会場：新潟東急イン3F「春日の間」

■出席者：

新潟市：相田技監、井村都市政策部長、渡辺土木部長、村上財務部長、伊藤技術管理センター所長、本多技術管理課長、須佐土木総務課長、樋山道路計画課長、青木東部地域土木事務所長、河原西部地域土木事務所長、岡田下水道計画課長、岡田東部地域下水道事務所長、入沢西部地域下水道事務所長、吉崎契約課長

協会：小野塚新潟地域委員長、阿部、山岸、上田、中俣、船谷地域委員、高田運営委員長、大平、涌井運営委員、惣賀、新潟地域委員会参与、田辺総括部会長、横山技術部会長、松浦事務局長

■配布物：会議次第、出席者名簿、席次表、議題、会委名簿

■開会挨拶要旨

○小野塚委員長

- ・市の幹部出席に対するお礼。
- ・当協会の活動に対して力強い支援、協力に対してのお礼。
- ・第6回目の意見交換会である。
- ・意見交換会において、毎回いくつかの成果が得られている事に対するお礼。
- ・新潟県において、H16年7.13水害をはじめ昨年の新潟・福島豪雨災害と自然災害が多数発生しており、協会は行政の良きパートナーとして、その使命を十分に果たしていると自負しております。
- ・実りある意見交換会になることを期待したい。



北陸支部

○相田技監

- ・「安全・安心なまちづくり」を推進する上で、力になって頂き大変心強い業界であると考えております。
- ・建設産業の抱える課題は多くあり、意見交換会を通じて時代の変化に沿ったよりよい制度を構築していきたい。



新潟市

■意見交換会

(進行：高田運営委員長 説明：山岸地域委員)

1. 各部の施策並びに建設関係予算について

○都市政策部

①新潟駅連続立体交差事業について

平成18年度より着手し、鉄道により分断されている南北市街地の一体的整備を図り日本海拠点都市の向上や日本海国土軸の形成に向けて総合的な整備を進めている。

②平成24年度予算及び執行状況

周辺の道路・街路事業（駅本体を除き）で事業費4.7億円のうち10月末時点で約3億円（契

約ベース) 63%が契約済みである。

③平成25年度予算の見通しについて

平成25年度予算の見通しは、先が見えていない。社会資本整備総合交付金と一括交付金の2種類の交付金制度ができ、全国防災の予算が先取りされ、次に沖縄予算が先取りとなり、予算取りに苦戦している。

○土木部

①橋梁の維持補修事業について

平成22年度からの橋梁維持管理計画に基づく、15m以上の橋梁は624橋で、そのうち対策が必要な橋梁は、404橋である。平成23年度は18橋、平成24年度は27橋の対策を行い、まだ合計で45橋完了したのみであり、あと350橋を対策しなければならない。

今年度は、国道113号の高架橋、新潟新発田村上線の泰平橋、新潟亀田内野線のゆきよし跨線橋などを予定している。

②自転車利用環境の推進について

今年度、平成21年度に策定した自転車利用環境計画に基づき、自転車利用者のニーズを踏まえた駐輪場の整備を行っている。

全体計画ハード60kmのうち22年度3.1km全体で7.4km整備済みである。

③幹線道路網の整備と高速道路の有効活用について

広域的な地域間の交流連携を促進し、都心および地域拠点の活性化に資するとともに災害に強い道路網の整備を進めている。

主な事業は、日東道と赤道交差点に予定している(仮)新潟東スマートインターの事業 新潟中央環状道路、白井橋、国道403号小須戸田上バイパス等である。

④平成24年度の予算執行状況

道路関係予算139億円のうち委託費は11億円で、10月末の予算執行状況は、工事費82億が契約済みであり、契約進捗は事業費ベースで65%。

委託関係は、予定187件のうち10月末144件が発注済み。

⑤平成25年度予算の見通し

予算取りは、都市政策部同様に厳しい状況です。

○下水道部

①雨に強い都市づくりについて

昨年度、中央区で浸水ハザードマップを作成し、今年度は、東区で作成、来年度は、西区で随時ハザードマップを作成する。

ハード整備は、自助努力として行う住宅の嵩上げ、防水場の設置に対して助成制度を設けているが、今年度から個人の駐車場の嵩上げに対しても助成を行っている。

田んぼダム、背割り排水路について、既設の施設を利活用して浸水対策をすすめる。

②総合的な污水处理の推進について

下水道の普及率は、78.7%と全国平均値の75.8%を若干上回るが、政令市の中では、下から3番目の水準である。

西区や合併地区を中心に污水处理整備を進め、普及率の向上を図る。

市設置の公設浄化槽制度など、地域に適した整備手法を選択しながら、污水处理整備を進める。

③下水道再生可能エネルギーの利用について

中部下水処理場では、消化ガス発電施設を整備中であり、稼働すると中部下水処理場の電力自給率は、約40%となります。今後は、下水熱を利用や、小水力発電・太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用を推進していきます。

④下水道施設の機能確保

今年度、施設と管渠の長寿命化計画を策定し、来年度より改修工事を進めていきます。

⑤平成24年度予算の執行状況

当初予算162億円うち委託費14億円であり、執行状況は、委託197件予定したうち10月末現在で141件の執行済みである。

⑥平成25年度予算の見通し

下水道予算の国からの交付金のうち、地域自主戦略交付金は、污水处理の工事を用途としそれ以外は、社会資本整備総合交付金である。今後は、改築工事と市民の安心安全の事業について予算確保をして、再生可能エネルギーの有効活用についても検討していきたい。

2. 入札・契約制度について

議題：業務の内容に見合った技術力を有する指名選定について

回答：競争入札の指名に当たっては、工事担当部署か

らの意見、業者登録の際に提出したコンサル登録者名簿、専門技術者数、対応可能な専門・得意業種や業務実績などを参考に指名しています。また、特殊な案件や高額な案件については、指名競争入札ではなく、一般競争入札を行い、参加要件や技術力がある業者に参加頂いているところでもあります。

議題：予定価格の事前公表廃止（積算のできない不良不的確業者の排除）について

回答：過去から経緯もあり、事後公表は、拡大する方向で検討しています。

今年度から区が発注する100万円以上の案件にも拡大している。

平成20年度 0件

平成21年度 1件（発注件数 70件）

平成22年度 10件（発注件数146件）

平成23年度 9件（発注件数107件）

平成24年度 25件（9月末現在50件中50%）

議題：最低制限価格の引き上げと失格基準の改定について

回答：各業界の皆様から、要望を頂いている。

落札率も上昇傾向にあるが、景気動向と皆様の状況を見極めて検討していきたい。

平成20年度 1千万円以上の一部で設定

平成21年度 10月以降100万円超全てに設定

平成22年度 失格基準60%⇒85%に引上げ

3. 地域調達について

議題：地元企業への発注に対する取組状況と今後の方針

回答：従来より、可能な限り地元企業を重視した指名を行っており、今後も地元企業を重視した指名を行っていきます。

議題：設計委託における市内企業、県内企業、県外企業別の受注状況の推移を示して下さい。

回答：土木コンサルタントにおける地元受注状況の推移

平成19年度 市内企業78.03%

県内企業1.73% 県外企業20.23%

平成20年度 市内企業73.97%

県内企業0.00% 県外企業26.03%

平成21年度 市内企業79.69%

県内企業0.00% 県外企業20.31%

平成22年度 市内企業77.33%

県内企業0.67% 県外企業22.00%

平成23年度 市内企業84.40%

県内企業0.00% 県外企業15.60%

平成24年度 市内企業85.45%

県内企業0.00% 県外企業14.55%

（9月末現在）

発表数字の示す様に、地域調達は成果が現れていると思っている。

●自由質疑

Q：土木コンサルタントにおける「平均落札率」の推移を示して下さい。

A：土木コンサルタントにおける平均落札率の推移

平成21年度 74.94%（70件）

平成22年度 79.10%（146件）

平成23年度 82.10%（107件）

平成24年度 80.73%（50件）

4. 業務の円滑な執行について

議題：「片務性」の解消について

①標準歩掛に計上されない「施工計画（段階施工）」や「仮設計画」の要求

②関係機関との協議資料作成が、多岐多様多数になる場合の適正な変更費用の計上

③対外協議への立会や現場確認の立会とその適正な費用の計上

④工期を過ぎても、打合せ協議や対外協議を要求される場合があり、適正な繰越契約の実施や、新たな年度での新規契約の適正な実施

⑤特記仕様書による過度な施工計画、修正設計、対外協議等の要求

⑥変更金額が当初より大幅な増額になる場合であっても、変更額が3割を超えない額になるよう要求される。

回答：①、②、③について標準歩掛「施工計画」に大規模かつ多岐多様多数になる場合の歩掛はないので、別途事業課で、「施工計画」のみを抜き出して見積対応とすることが適正と思われる。地元・河川協議も同様と考え、打合せ協議の回数を増やすなどとして対応することが適正と考える。

対外協議、現地確認も同様に打合せ協議回数で調整することが適正と考える。

④、⑤については、事業課の実態を把握していないので、今後調べてみたい。

会計検査の対応時に費用負担が支出できる契約があるので、そのケースと同様に費用支出ができる様に事業課と調整する。

⑥については、3割を超える案件は、当初設計が「ずさん」と云わざるをえない。

5. その他

議題：業務委託の成績評定の実施予定について

回答：来年度4月より実施予定。

評価項目については、今後ホームページで公開する。

国および新潟県に準じた評価基準で設定する。平成25年度は、契約金額500万円以上の業務について成績評定とする。

議題：東部土木、西部土木、東部下水、西部下水の4事務所の現況と課題

○東部地域土木事務所

平成24年4月に事務所の組織変更があった。維持関係は、全て区役所に移管し、建設関係1課となった。土木事務所では、国県道、都市計画道路、公園、橋梁の新設及び維持修繕を行っている。平成24年度の委託は、全体50件を予定しており、すでに42件を発注し1億円程度です。今後の発注予定は、橋梁詳細設計が3件、秋葉区の駅関係の詳細設計等が発注される予定です。

○西部地域土木事務所

平成24年度の委託は、37件予定し33件発注されている。「繰越契約」については、昨年度も対応しているもので、申し出て下さい。

○東部地域下水道事務所

所管区域は、中央区、東区、江南区の3区普及率は、98.3%（農業集落排水・合併浄化槽を含む污水处理人口）でありほぼ完了に近づいている。単独浄化槽を使っている人口は、6,600人程となっている。平成24年度は、11件（地質・測量含む）8千

万円程で発注は、完了している。

来年度は、大幅な増額となる見込み。

課題は、工事繰越を20%以下にすること。

接続率を上げて、収入を多くしたい。

話題提供として、八箇峠でトンネル工事ガス爆発事故があったため、推進工事の中・大口径について安全基準と工法等の大幅な変更となっている。メタンガスの調査（井戸掘り）を行ってから工法を決めていくこととなったので、設計に考慮頂きたい。

○西部地域下水道事務所

平成24年度の事業枠は、総額31億円の建設費を確保、平成22年度で46億円、平成23年度で34億7千万円であり、事業費が縮小傾向にある。委託費は、2億6千万円31件であり100%実施済みである。

事業費の落ち込みの要因は、接続率が低い点である。

特に西蒲区に接続率が40%程であり、接続が進まない。

接続率が上がらないので、優先順位が下がり、事業費に反映されている。

■建設コンサルタント協会からの要望等（総括）

「適正な工期の確保」と「適正な繰越契約の実施」をお願いしたい。

関連機関協議等で工期が伸び年度末工期が集中する。

協会の調べでは、7割～8割が年度末に集中しており、学生のコンサルタント業離れが起こっている。「片務性」についての悩みを聞いて頂いたが、本日の交換会結果を担当者レベルまで周知していただきたい。

■市からの感想（総括）

特に「片務性」については、組織として問題があると感じた。

私の方から、徹底する様にしておきます。

細かい事に至らない部分がありましたら、お力添えをお願いしたい。

■閉会の挨拶

○高田運営委員長

これからも、良きパートナーとして、よろしく願いをいたします。

平成24年度 里山に関する技術講演会報告

技術部会 河川及び砂防委員会・環境委員会

1. はじめに

平成24年11月30日、建設環境委員会と河川及び砂防委員会企画の環境講演会を開催しました。内容は、昨年に引き続き荒廃が進行している森林に係わるテーマとして“里山に関する技術講演会”を企画しました。第一部は、「里山と海をつないでいた魚たち」と題し、富山県農林水産総合技術センター水産研究所の田子泰彦氏にサクラマスの生息環境についてご講演いただき、第二部は「県民参加による多様な森づくりの推進」と題し、富山県農林水産部森林政策課の清水真人氏に森林環境税の事例をご紹介いただきました。

日 時：平成24年11月30日 13：30～17：00

場 所：富山県民会館

参加者：建設コンサルタンツ協会北陸支部会員より21名の参加

2. 概要

第一部「里山と海をつないでいた魚たち」

富山県の食文化を育み、今や富山県の名産となった鱒寿司の材料は、サクラマスです。このサクラマスの生態に関する研究を続けてこられた講師より、生息状況の報告がありました。

戦前は神通川でサクラマスが満ちていましたが、その後19のダムが建設され漁獲高は1/10以下に減少してしまいました。この環境下でサクラマスの生息環境を維持・改善する取り組みが行われています。

その中で“巨大なダムに魚道をつけてもその効果は低い”の話がありました。魚道で遡上してもその上流のダム湖の環境がサクラマスの生息環境に適していないことが理由とのことでしたが、今後の魚道設計のあり方を示唆する内容だと思います。また、ダムの建設によりそれより下流の河床低下が著しく、石や砂利の量が減少し中流域では基盤岩が露頭し始めて産卵できない環境となっているとのこと。これより、最近では本川での生息環境の整備よりも、最下流ダム(神三ダム)

の下流に流入する支川において産卵できる環境などの整備を中心に進めているとの報告があり、限られた空間で様々な工夫が行われていることが分かりました。

第二部「県民参加による多様な森づくりの推進」

富山県はH18年に「富山県森づくり条例」を作成し、その中で森づくりを支える税制度として「水と緑の森づくり税」を取り入れ、法人・個人より環境税を徴収しています。

森林・林業が荒廃しているのは富山県だけでなく、全国的な傾向です。その原因の1つに、森林単価の下落がありますが、スギの単価は3,332円/m²（樹高15m、胸高直径20cmのスギの木1本が877円）で、ピーク時の1/10程度の単価とのこと。加えて、林業の作業は危険を伴うもので建設業に比べ16倍の危険度との報告がありました。

森林環境税導入後は、法人、NPO、個人の参加により間伐など様々な取組みが行われ、県民意識の高揚など効果が確認されたものの、最近ではマンネリ化しており、新たな取組みが必要とのこと。500円/人/年程度の森林環境税の負担は、過度な負担とならず、森林・林業活性化の意識付けに丁度良い金額なのかもしれない、と思いました。

3. おわりに

川水は森から栄養塩と酸素を運ぶ血液の役割をしており、健全な森林と豊富な川水量は良好な水生生物生態系を構築し、特に生態系頂点の魚類の生息数・種類の増減に表れます。

平成9年の河川法、平成24年の森林法の改正は、これら生態系環境の保全・創出を目的の1つにしています。特に、森林法の改正は今後大きな動きが期待されるものであり、森林・林業の活性化、ひいては森林環境・河川環境の健全化につながると思います。

最後に、講演会開催にあたりお世話になりました関係者の皆様に対し感謝申し上げます。

社会貢献活動報告

～みんなで参加してプランターに花を!!～

広報部会

1. はじめに

去る平成24年10月13日、建設コンサルタンツ協会北陸支部では社会貢献活動として、本町通6番町及び東堀前通6番町へより本町商店街様の協力のもと、平成22年度の社会貢献活動として設置した「プランター」14基への植栽作業を行いました。

2. 行事内容

日時：平成24年10月13日

午前9時30分～午前11時30分

場所：本町通6番町及び東堀前通6番町周辺

参加者：29名

協賛：本町六商店街振興組合
東堀6商店会

当日のスケジュール：

1. 開会の挨拶 支部長 (寺本邦一)
2. 作業説明 広報委員長 (間瀬義昭)
広報委員 (深町耕史)
3. 植栽作業説明 (株)日建緑地 (川上課長)
4. 閉会の挨拶 広報部会長 (青木和之)

寺本支部長からは参加された方々に対して当協会の仕事の内容(市民生活を支える施設建設のための調査・設計を携わる企業で構成する団体)を中心に説明され、「沿道を彩る花々が商店街のにぎわいに繋がればうれしい」と挨拶。



寺本支部長による開会挨拶

3. 植栽作業

広報委員から植栽活動の注意事項について説明。続いて、(株)日建緑地 工事部 川上課長からはプランターへの植栽作業について説明が行われた。

その後、4班に分かれて当協会のブルーのジャンパーを着た参加者が、本町通6番町及び東堀前通6番町に設置しているプランターへ植栽活動を行った。



参加者による植栽活動の状況1

休日のイベントでもあったことから、一般の買い物客が関心を持って足を止める場面もあった。最後にじょうろでたっぷりと水を与え、参加者全員で花植えの完成を拍手で祝った。



参加者による植栽活動の状況2



参加者による植栽活動の状況3

4. 閉会の挨拶

昨年に引き続き、同地区での「プランターの植栽」社会貢献活動を終え、青木広報部会長より参加者のみなさんに対してあらためて謝辞が述べられ、終了となった。



青木広報部会長の閉会挨拶

5. 最後に

当協会の活動へのご理解・ご協力を頂きました「本町六商店街振興組合」の早川理事長様、「東堀6商店会」の三宮会長様、関係者の皆様に対して、あらためて感謝申し上げます。



本町六商店街振興組合 早川理事長の謝辞

平成24年度「小学生のための出前講演」 ～新潟市立大形小学校 [11月26日]～

広報部会

昨年度に引き続き、今年度も新潟市立大形小学校から出前講演の依頼が来ました。ありがたいことに昨年度の授業の評判がよく、今年度は授業時間を昨年度の2倍、90分いただき授業を行うことになりました。講演テーマは昨年度と同様に「身近なところから『環境』について考えてみよう」で、講師も昨年度と同様に新潟市在中の建設環境委員会で担当しました。

昨年度の経験を活かし、テーマを2つに絞り個々の授業時間を十分取ることで、実験のような体験型の授業をできるだけ取り入れることを方針として授業内容の計画をしました。

当日は大形小学校の5年生約180名が授業を受けてもらいました。講演の概要について、以下に紹介します。



出前講演の様子

■出前授業の概要

①第1部：水のごれについて

第1部は、「水質を調べよう」と題し、水のごれの話と簡易水質測定の実験を行いました。

まず、人間も環境の一部であること、多くの人が苦しみ問題である7公害のうち、水のごれを例として授業することを説明しました。水のごれには「有害なごれ」と「食べ物など生活系のごれ」があることを話し、生活系の水のごれが生態系に与える影響

や、水をきれいにするためにはまず水のごれの有無を知らなければならないと続けました。

次に、水のごれを知る科学的な方法であるパックテストにより、50人の児童が実際に純水と2種類の濃度の砂糖水のCOD（化学的酸素要求量）を測定しました。



児童の水質簡易検査の様子

実験は整然と進めることができ、児童はパック内の試薬の色の変化に驚くなど興味を示したうえに、概ねこちらの想定通りの測定結果が得られましたので、大成功といえます。

最後に、下水道の普及や人々の努力によって、例えば大形小学校に近い通船川が昔に比べてきれいになっている例を紹介し、家庭でも余った料理を下水道に流さないようにすることなどで水をきれいにすることに協力でき、ひいては温室効果ガス（CO₂）の削減にもつながる、と結びました。

②第2部：エコ生活について

地球環境では、近年言われている温暖化について、気温上昇の状況とその影響、その要因といわれるCO₂増加が資源・エネルギーの消費や生活環境の向上によること等を説明しました。

私たちは多くの資源・エネルギーを消費している中、まず「資源・エネルギーの大切さ」を知ってもらいた

め、今年度は特に「体験」をキーワードに、各クラスの代表者から手回しによる発電と点灯を試みました。日頃何気なく使っている明かりを、人力によっても発電できることを体験できたかと思います。さらに、「身近なエコ生活の取組み」として、照明時間の節約、室内温度の調整、車の相乗り等、家庭でできる実践をクイズ形式で紹介しました。

一方、個人や家庭の取組みのほか、私たち建設コンサルタントがコンパクトシティ、円滑な交通網整備、緑地整備等環境配慮型設計の社会資本整備に取り組んでいることも学んでもらいました。



布団を使った地球温暖化の説明

■出前授業の総括

昨年度に引き続き、このような機会に再び参加させて頂き、大変ありがとうございました。発電体験では、児童が一生懸命に動力として手回しをしていると、場内から笑いも起こるなど資源・エネルギーの節約やCO₂の削減に対し、少しは興味を持ってもらえたのではないかと思います。地球環境の保全・改善は、国・地域・産業・家庭が一体となって取組まれるものです。将来の社会を担う小中学生に、今後もこのような啓蒙を図って行きたいと考えます。

(建設環境委員：栗山元英)

児童、先生方、広報、環境委員の方々の協力により無事授業を終えることができました。内容的には、予定していた実験を時間の都合で省略するなど不手際もあり反省しています。それでも、授業終了後のわずかな時間に数人の生徒に囲まれ「パケットの中には何が入っているのですか？」という質問を受けたり、

新潟日報の記事で「水のごれのことがあった」という生徒の感想を読んだりして、少しはお役にたつたように感じています。(建設環境委員：藤本隆則)

昨年度に実施した授業の評判が良かったそうで、今年は授業の時間も2倍以上いただき、我々講師の方も力を入れて授業の準備をしました。評価は子供たちや先生に委ねるしかありませんが、講師のサイドとしては、ある程度は充実したものとなったのではないかと自負しています。

こういった経験を積み重ねることで我々講師の側もスキルアップを図り、より内容のある授業ができるように努力したいと考えます。他の委員の皆さんからご助言があれば是非お願いします。

(建設環境委員長 佐藤 朗)

■広報部会から

今回の出前授業に当たり、大形小学校の児童、先生皆様に感謝し、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

また、大形小学校より授業を受けた感想を作文でいただきましたので、以下に紹介します。

○参加児童の感想文

5年生 坂井 結

第1部で水のごれのことを教えてもらいました。水は人々の生活でよごれていきます。上流の水は、下流へ流れていくので上流の人たちが水をよごすと下流の人たちが困ってしまいます。水をよごさないようにしたいと思いました。

第2部では、地球温暖化のことを教わりました。100年で0.74度気温が上がっているのも、また100年たつと4度も気温が上がるとすいそくされているそうです。その原因はCO₂です。人間の生活を豊かにする電化製品がCO₂を増やしてしまっていることも知りました。

私は今まで水のごれや地球温暖化などの環境のことはあまり気にかけていませんでした。でも、今日勉強しただけでもいろいろ分かり興味をもちました。これからの勉強がとても楽しみになりました。

5年生 今井 薫

11月26日に大形小学校で、CO₂のいろいろなことを教えてくださってありがとうございます。

話を聞いて、一番びっくりしたことはCO₂による地球温暖化です。

100年前と比べると0.74度も上がっていることはすごびっくりしました。しかも、もう100年後には4度も上がるのは、さらにびっくりしました。そして北極、南極の氷がとけ、日本の面積のちょっとが海水でしずんでしまうので、これからはむだな電気を使わないで節電をこころがけていこうと思いました。

これらのことから、CO₂は日本をしずめたりするので、CO₂をぜったいになくした方がいいと思いました。

ぜひ来年も大形小学校に来て、来年の5年生に、このためになる話をきかせてください。本当にありがとうございました。

5年生 南場 優大

ぼくは、環境について学んで地球温暖化をなくすにはどうすればいいのだろうと思いました。地球温暖化は便利な暮らしで使う石油、ガス、石炭といった「化石燃料エネルギー」がげんいんです。そこでCO₂を減らすには「化石燃料エネルギー」を使わないことになるので、すこし無理がでます。なので、ぼくは世界中のみんなが身近なところでCO₂を減らす行動をすることでCO₂がものすごく減ると思います。そしてぼくもCO₂を減らすため照明をこまめに消すようにしています。

このようにすることでCO₂を減らし地球を守ることができると思います。

建設コンサルタントのみなさん、環境について教えていただきありがとうございました。おかげでいろいろな目標ができました。また機会があれば環境について教えて下さい。

5年生 河野 佳奈

11月26日は5年生に環境について教えてくださってありがとうございました。

特に私が興味をもったのが地球温暖化についてです。私はよく地球温暖化という言葉をきくけど、くわしくは分かりませんでした。でも、話をきいてみたら、地球温暖化がどういうのかが分かりました。CO₂の排出量が多いと温暖化の原因となってしまうので最近コン

パクトという活動を増やしているということを知りました。なので、今の季節だと大変かと思うけど、なるべく車を使わないようにお出かけしたいと思いました。

3学期は環境について調べ、発表をします。なので私は、地球温暖化について調べ、自分達にできることをまとめて発表したいと思います。

いろいろ教えてもらったのでたくさん学びました。本当にありがとうございました。

5年生 五十嵐 由佳

環境について分かったことは、まず水質についてです。水がよごれていると動物や人が住めなくなって大変です。なぜ水がよごれるかという、人の生活のいきょうがあるからです。例えば、きたない物を流したりするからです。だから、みんながゴミをださない努力をしていけば、川がどどんきれいになっていきます。次に分かったことは、地球にやさしいエコ生活についてです。最近CO₂が増えてきています。CO₂が多くと、大雨などいじょう気象になります。CO₂が増えた原因も人の生活の変化にあります。例えば、パソコン、TV、せんたくき、自動車などです。

わたしは、お話を聞いて、環境が悪くなるのも、良くなるのも人の生活しただと分かりました。だから、できることからやっいていこうと思いました。この学習を通して、CO₂はどのくらいから増えてきたかや、水をきれいにするのにゴミを出さない以外に何ができるか調べたいです。

○新聞掲載

今回の出前授業は、業界新聞のほか一般紙である新潟日報でも紹介されました。

以下に掲載記事を紹介します。



新潟・東区
大形小学校で26日、公共事業の道路や橋の設計を担当する企業でつくる建設コンサルタンツ協会北陸支部による出前授業があった。児童は実験などを通して水の汚

実験通じ環境学ふ

れや地球温暖化など環境問題への理解を深めた。

北陸支部は新潟、富山、石川の3県にある約60の設計業者で組織する。地域貢献活動として2004年から、地元の小中学校で授業をしている。

この日は5年生約180人が、実験で水と薬品を混ぜて水の汚れ具合を調べた。薬品がピンクや緑色に変化すると児童たちは驚きながらも、無色透明に見える水でも汚れの程度が違ふことを学んだ。渡辺南佳さん(11)は「実験では薬品の色が変わって面白かった。水の汚れの問題がよく分かった」と話していた。

(株新潟日報社提供：平成24年11月28日付け 新潟日報 (朝刊))

水質、温暖化で出前講座

新潟市大形小5年生に

建設コンサルタンツ協会北陸支部

建設コンサルタンツ協会北陸支部(守本那一支部長)は26日、新潟市大形小学校の5年生179人を対象に「水質の実験と解説」「地球温暖化」に関する出前講座を行った。写真。同支部では社会資本整備の必要生への理解促進、子どもたちの将来の職業選択の1つとして認知度を高める目的で2004年度から出前講座を行っている。冒頭、同支部技術部長の佐藤朗建設環境委員長が道路や河川の整備、公



同支部では社会資本整備の必要生への理解促進、子どもたちの将来の職業選択の1つとして認知度を高める目的で2004年度から出前講座を行っている。

と身近な環境を守る仕事にも取り組んでいると報告した。引き続き、環境委員の藤本隆則氏が水質、栗山元英氏が地球温暖化について講義した。藤本氏は「水がよくなること」、「水の上をこれを通べること」、「水を守ること」をわかりやすく説明し、バックテストでCODを図る実験も行った。栗山氏はCO2を減らす行動リストについて説明。家庭での温暖化防止策を解説した。今年も引き続き、12月11日には新潟市立丸山小学校で新潟県横越線の成り立ちを講義することになっている。

(株北陸工業新聞社提供：平成24年11月27日付け 建設工業新聞)

平成24年度「小学生のための出前講演」 ～新潟市立丸山小学校 [12月11日]～

広報部会

12月に新潟市立丸山小学校より出前講演の依頼を頂きました。

講演のテーマは「みちづくりのお話し」です。当日は丸山小学校5年生51名と先生2名を対象に60分の講演を当協会講師1名、準備4名で行いました。

講演の概要と授業に参加した児童の感想を紹介します。



出前講演の様子

■出前授業の概要

今回の出前授業は道路の歴史や身近な道路が出来るまでを学び、道路の役割や社会資本整備、維持管理についての意識が少しでも芽生えればという意図もありました。

協会としては子どもたちに、「建設コンサルタント」という名前、仕事を理解してほしい。そして建設コンサルタントが魅力ある職業のひとつで、社会で大切な役割を果たしていることを理解してもらいたいとの願いもありました。

内容については次の通りです。

①自己紹介

建設コンサルタントの仕事の内容を簡単に説明しました。

②道路の役割

道路の様々な役割について紹介しました。

③道路の歴史

人とみちの歩みについて世界史、日本史から紹介しました。

④道路の出来るまで

道路の計画～維持管理に至るまでの流れについて簡単に解説し、コンサルタントがどのように関わっているか説明しました。

⑤身近な道路の構造

学校のすぐ脇を通る県道（新潟港横越線）の構造（沈下対策）や毎日利用している地下歩道の構造についてなぜそのような構造となっているのか実例を交え紹介しました。

資料については昨年出前授業の事例も踏まえ、イラストやクイズを取り入れ少しでもわかりやすくするように工夫しました。

■参加児童の感想文

5年生 田宮愛実

私の父は建設の仕事をしているけど、建設コンサルタントと私の父の仕事は少し違うことがわかりました。私がこの勉強をしてわかった事は5つあります。

1つ目は人がつくった道路は約6000年くらい前だということです。私は4000年前くらいだと思っていたけど約6000年くらい前に作られたと聞いてびっくりしました。

2つ目は道路をつくるのに何年かかるかということです。お聞きしてみると約10年くらいかかると聞いてびっくりしました。10年もかけて安全・安心な道路をつくってくれているんだなあと思いました。

3つ目は地下道のことです。地下道の下には鉄筋をたくさん入れて上を走っている車の荷重を支えていると知りました。

4つ目は鉄筋の事です。鉄筋の量は上の荷重を支えるように構造計算を行って決めているとおっしゃっていました。

その高さ（内空）は2m50cmくらいということでした。ちなみにレルヒさんは2m70cmなのでしゃがまな

いと通れないくらいの高さです。ALBIREX BBの人だと楽勝に届くくらいの高さだということです。

5つ目は日本で計画的に道路が整備されたのは何年くらいかということです。これはクイズで①520年前、②1000年前、③1350年前 だということで私は②だと思ったけど正解は③でびっくりしました。この時代は聖徳太子の時代だったそうです。

私はこんな貴重な授業が出来てすごくうれしいです。まちづくり出前講座という事でこういう経験ができてうれしいです。私はこういう授業で未来の仕事として参考に出来ていると思います。

5年生 深沼馨仁

今日、出前講座という勉強がありました。建設コンサルタント協会北陸支部の人たちが来て道作りのお話しをしてくれました。

僕が一番すごいと思ったのは6000年前（紀元前4000年）前に人が道を作ったということです。そんなに前に道を作る技術があるなんてとてもびっくりしました。

それと学校の脇の地下歩道を作るのに約1億円くらいかかると聞いていたのでビックリして「エーツ」といってしまいました。

あと赤道は15kmくらいの長さだといっていたのでこれもまた「エーツ」といってしまいました。

聞くのを忘れたけどみなとトンネルはどのくらいの費用をかけて作ったのか知りたかったです。道路が出来までの苦労や費用がかかったりするのが大変なのがわかりました。今ある道路を感謝して使いたいと思います。



出前講演の様子

■出前授業の総括

今回の授業は当初予定では45分の予定でしたが、当日60分時間を頂くことができました。

説明は45分を目処に作成しており、早く終わってしまうのではと考えていましたが、質問コーナーで10件ほどの活発な質問があり、ほぼ時間どおり授業を終えることが出来ました。質問の内容も道路をつくるにはどのくらいお金がかかるのですか？トンネルをたくさん造る（直すと）税金が上がってしまいませんか？など一部報道等の世相を反映したものもあり、今後も情報発信していく必要性を感じました。

また、先日のトンネル事故の記憶も新しいところであり、維持管理の重要性についても実感してもらえているようでした。

(指針等検討委員長 真嶋利寿)

○新聞掲載

今回の出前授業は、業界新聞で紹介されました。
以下に掲載記事を紹介します。

建設コンサルタツ協 会北陸支部は11日、新潟市丸山小学校の4年生51

コンサルの役割、「赤道」で講義 新潟市丸山小でも開催



建設コンサルタツ協 会北陸支部は11日、新潟市丸山小学校の4年生51人を対象にした出前講座を行った。写真。講師は真嶋利寿街針等

検討委員長を務め、建設コンサルタツの役割、学校前を通る県道新潟港横線(通称・赤道)について講義した。小見氏は古代からの一人とみちのあゆみについて解説し、計画から完成までの「道路ができるまで」を説明。赤道については地盤の悪いところを支えている深層混合処理工法などを説明した。最後に「みんなで大切にしよう」を使いましょう」と結んだ。

(株)北陸工業新聞社提供：平成24年12月12日付け 建設工業新聞

建設コンサルタツ協 会北陸支部(写真)は11日、新潟市丸山小学校で「みちづくりのあゆみ」をテーマにした出前講座を開催した。写真。講師は真嶋利寿街針等

新潟・丸山小の5年生40人 道路の大切さ学ぶ



講師は北陸工業新聞社の真嶋利寿街針等と小見明氏が務めた。写真では、道路が持つ役割について、

建コン協北陸出前講座

る幅広い機能やその歴史を紹介した上で、道路事業の工程に詳しく、計画から完成までの流れや役割を詳しく説明した。建設現場では利用者の安全・安心の確保やお客がわからない部分を考えながら、それを具体化していくと説明した。このほか、舗装や歩道、排水設備など、道路の様々な機能や役割について詳しく説明した。また、道路の役割や歴史について、小見明氏が説明した。道路は、私たちの生活を支えている大切なインフラであり、道路の役割や歴史について、小見明氏が説明した。道路は、私たちの生活を支えている大切なインフラであり、道路の役割や歴史について、小見明氏が説明した。

(株)日刊建設通信新聞社提供：平成24年12月13日付け 建設通信新聞



業務・研究発表会の開催と論文募集

北陸支部では、建設コンサルタンツ協会50周年記念事業の一環として「建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会」を次のとおり開催致します。

会員各位からの論文をお待ちしておりますので、奮ってご応募下さい。

主 催：(一社) 建設コンサルタンツ協会北陸支部
開催日時：平成25年 8月 8日(木) 13:00~18:00 (予定)
場 所：興和ビル10階 第5会議室 (新潟市中央区新光町6-1)

論文募集要領

(1)対象成果

- 1)~5)の記載内容を全て満たすこととします。
- 1)建設コンサルタント企業に属する技術者が、平成23年度・24年度に従事した業務や研究
- 2)「調査・計画」「設計・施工」「防災・減災」「維持・管理」のいずれかの分野に該当
- 3)以下に示す8つの専門技術部門のいずれかに該当
 - a 河川、砂防及び海岸・海洋
 - b 道路
 - c 都市計画及び地方計画
 - d 地質
 - e 土質及び基礎
 - f 鋼構造及びコンクリート
 - g トンネル
 - h 建設環境
- 4)特色ある業務、あるいは創造的な研究や新技術開発の成果 (中間報告や提案も可)
- 5)建設コンサルタンツ協会北陸支部の包括区域における国・地方自治体等に関する論文内容

(2)審査方法

- 1)所定の申込書に論文の概要を記載のうえ応募 (平成25年 5月15日必着) していただきます。
- 2)申し込みいただいた中から8編を選考します。選考結果の通知は、平成25年 6月28日(金)頃の予定です。
- 3)発表会で発表する論文は、選考された8編となります。

【提出期限】・発表論文 (作成様式は別途案内します)：7月10日(水)
・発表用スライド：7月30日(火)……PowerPoint ファイル
- 4)発表方法は1論文につき、15分間の口頭発表、5分間の質疑応答とします。発表は、パソコンプロジェクタをご使用いただきます。スライドプロジェクタ、OHPは使用できません。

(3)表彰

- 8編の中から、優秀な発表者を表彰いたします。表彰内容は以下のとおりです。
- ・支部長賞 (最優秀賞) 表彰状+副賞 (1名)
 - ・奨励賞 表彰状+副賞 (1名)
 - ・審査員特別賞 表彰状+副賞 (1名)
- なお、支部長賞受賞者は、50周年記念事業の一環として本部で実施される「業務・研究発表会 (開催日：平成25年 9月19日、場所：東京)」にて発表していただきます。

(4)その他留意点

- 1)過去に学会等で発表したことがある成果か否かは問いませんが、必要に応じて事前に発注者の了解を得る等、適切な対応を講じてください。
- 2)発表会の聴講募集は別途行います。

(5)問合せ・申込先

(一社) 建設コンサルタンツ協会 北陸支部事務局
〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7階
TEL. 025-282-3370 FAX. 025-282-3371 E-Mail kenkon@abeam.ocn.ne.jp

第1回 北陸橋梁保全会議

— 報文募集のお知らせ —

【北陸橋梁保全会議】

北陸地方の道路橋では高齢化・老朽化の進展、日本海側特有の冬季風浪や凍結防止剤散布による塩害・腐食、アルカリ骨材反応による損傷等に対して、様々な取り組みが行なわれています。また、高齢化する道路橋を適時・適切に維持管理していくため、定期点検結果に基づく「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、限られた予算の中で予防保全的な維持管理を目指しているところです。

北陸橋梁保全会議は、橋梁保全に関する蓄積してきた技術・技能の伝承・研鑽を図るとともに新技術の開発、より一層の品質確保・信頼性向上を目指し、優れた橋梁保全技術を次世代へ継承していくことが重要とのことから、「産学官」が連携して橋梁保全に関する調査・研究、設計、施工、維持管理等に関する情報交換・発信のプラットフォームとして平成24年11月に設立しました。

■ 報文募集のお知らせ

第1回北陸橋梁保全会議の発表報文を募集します。

1. 報文の申し込み方法

- ・報文発表申込書に記載し、事務局までお申し込みください。

報文発表申込書提出期限 平成25年5月10日

報文本文提出期限 平成25年6月10日

2. 報文募集分野

- ・報文は、以下のテーマ分類で募集いたします。
- ・橋梁の保全技術に関する内容とし、
 - 1) 調査・研究に関するもの 2) 点検・設計・計画に関するもの
 - 3) 施工・維持管理に関するもの 4) 材料に関するもの

■ 第1回北陸橋梁保全会議 開催案内

開催日 平成25年11月11日(月)～12日(火)

開催場所 新潟グランドホテル 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通3ノ町2230番地

開催内容 ・基調講演 ・パネルディスカッション ・報文発表
 ・橋の相談コーナー ・交流会

その他 ・参加費：有料（高校生、学生の参加費用は無料） ・CPDS認定プログラム（予定）
 詳しくは、北陸地方整備局ホームページ（<http://www.hrr.mlit.go.jp/>）をご覧ください。

主 催：北陸橋梁保全会議 実行委員会

国土交通省北陸地方整備局、新潟県土木部、富山県土木部、石川県土木部、新潟市土木部、東日本高速道路(株)新潟支社、中日本高速道路(株)金沢支社、(財)新潟県建設技術センター、(財)海洋架橋・橋梁調査会、(一財)土木研究センター、(社)北陸建設弘済会、(一社)日本橋梁建設協会、(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会、(一社)建設コンサルタント協会北陸支部

北陸支部活動報告

平成24年10月3日・4日

都市計画研修会

場 所／名古屋市内

参加者／12名

平成24年10月9日

新潟県土木部との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／新潟県 宮田土木部長 他

北陸支部 小野塚新潟地域委員長 他

平成24年10月10日

広報部会広報委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／社会貢献活動について

平成24年10月11日

広報部会会誌編集委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／会誌「雪の音」の発行について(第116号・第117号)

平成24年10月12日

北陸地方建設副産物連絡協議会下越分科会・分会長会議

場 所／新潟国道事務所

出席者／栗山建設環境委員

平成24年10月13日

社会貢献活動(新潟)

場 所／新潟市(本町・東堀で美化活動)

参加者／寺本支部長 他 参加者30名

平成24年10月19日

平成24年度 RCCM 登録更新講習会(本部主催)

場 所／新潟市内

参加者／200名

平成24年10月24日

平成24年度第4回役員会

場 所／新潟市内

内 容／協会本部運営委員会報告 他

平成24年10月24日

北陸地方整備局との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局 橋場局長 他

北陸支部 寺本支部長 他

平成24年10月25日

品質セミナー(共催)

場 所／新潟市内

出席者／67名

平成24年10月26日

独占禁止法の遵守に関する研修会(共催)

場 所／金沢市内

出席者／95名

平成24年10月30日

講師派遣

派遣先／富山県

派遣数／3名

平成24年10月31日

平成24年度建設技術報告会(実行委員会)

場 所／金沢市内

参加者／501名

平成24年11月2日

対外活動部会新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室

内 容／意見交換会等について

平成24年11月7日

総括部会

場 所／北陸支部会議室

内 容／部会運営について

平成24年11月8日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／1名

平成24年11月13日

北陸橋梁保全会議(仮称)実行委員会

場 所／新潟国道事務所

議 題／北陸橋梁保全会議設立について

平成24年11月13日

対外活動部会新潟地域委員会

場 所／新潟市内

議 題／意見交換会等について

平成24年11月13日

新潟市との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／新潟市 相田技監 他

北陸支部 小野塚新潟地域委員長 他

平成24年11月13日

コンクリートパイル技術講習会（協賛）

場 所／新潟市内

参加者／92名

平成24年11月14日・15日

北陸雪氷シンポジウム（共催）

場 所／新潟市内

参加者／200名

平成24年11月15日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／1名

平成24年11月16日

CAD 講習会（本部主催）

場 所／新潟市内

参加者／36名

平成24年11月16日

事業・研究発表会 WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／「事業・研究発表会」の開催について

平成24年11月21日

富山県景観づくりフォーラム2012（後援）

場 所／富山市内

参加者／200名

平成24年11月22日

河川情報センター講演会（後援）

場 所／新潟市内

参加者／137名

平成24年11月22日

情報セキュリティ講習会（本部主催）

場 所／新潟市内 出席者／36名

平成24年11月26日

出前講演（大形小学校）

場 所／新潟市立大形小学校

内 容／環境等について

参加者／5年生 180名

平成24年11月27日

広報部会広報委員会

場 所／北陸支部会議室

内 容／広報等について

平成24年11月28日

Made in 新潟（土木・建築）新技術説明会（共催）

場 所／上越市内

参加者／36名

平成24年11月30日

Made in 新潟（土木・建築）新技術説明会（共催）

場 所／長岡市内

参加者／113名

平成24年11月30日

里山に関する技術講習会

場 所／新潟市内

出席者／40名

平成24年12月1日

応用生態工学会第1回北信越事例発表会（後援）

場 所／富山市内

参加者／80名

平成24年12月6日

北陸橋梁保全会議講演会（実行委員会）

場 所／新潟市内

参加者／30名

平成24年12月10日

対外活動部会新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／課題の調整について

平成24年12月11日

出前講演（新潟大学）

場 所／新潟大学

内 容／環境影響評価 自然環境調査

参加者／20名

平成24年12月11日

出前講演（丸山小学校）

場 所／新潟市立丸山小学校

内 容／学校前を通る県道新潟港横越線(通称・赤道)について他

参加者／5年生 51名

平成24年12月12日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県上越分科会

場 所／高田河川国道事務所

出席者／藤本建設環境委員

平成24年12月13日

総括・広報合同部会

場 所／新潟市内

議 題／今年度の活動等について

平成24年12月13日

技術部会委員長会議

場 所／新潟市内

内 容／今年度の活動等について

平成24年12月13日

平成24年度第5回役員会

場 所／新潟市内

内 容／協会本部運営委員会報告 他

平成24年12月13日

本部藤本副会長講演会

場 所／新潟市内

参加者／73名

平成24年12月13日

橋梁技術講演会

場 所／新潟市内

参加者／32名

平成24年12月15・16日

歴史的空間再編コンペティション2012（協賛）

場 所／金沢市内

参加者／100名

平成24年12月16日

新潟市防災に係る講演会 WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／新潟市との「防災に関する講演会」の共催について

平成24年12月17日

新技術活用評価会議

場 所／北陸地方整備局

参加者／涌井委員長

平成24年12月26日

第6回設計業務品質確保研究会

場 所／北陸地方整備局

参加者／涌井委員長 渡辺委員長 清原道路委員

平成24年12月28日

独占禁止法の遵守に関する特別部会

場 所／北陸支部会議室

議 題／独占禁止法の遵守に関する講習会の開催について

平成25年1月16日

事業・研究発表会 WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／「事業・研究発表会」の開催について

平成25年1月25日

北陸橋梁保全会議合同部会

場 所／北陸地方整備局

議 題／北陸橋梁保全会議の開催について

平成25年1月28日

対外活動部会新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／新潟県からの意見照会について

平成25年1月29日

Made in 新潟（土木・建築）新技術説明会（共催）

場 所／新潟市

参加者／35名

平成25年1月30日

「けんせつフェア北陸 in 金沢（仮称）」準備会

場 所／北陸地方整備局会議室

議 題／「けんせつフェア北陸in金沢(仮称)」の開催について

平成25年1月31日

国土技術政策総合研究所との意見交換会

場 所／新潟市内

議 題／調査・設計等業務の品質確保について 等

社団法人 建設コンサルタンツ協会北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
朝 日 航 洋 (株)	北陸空情社	950-0088 新潟市中央区万代 2-3-6 (新潟東京海上日動ビル 2 F)	025(249)1150 025(249)1155
旭 調 査 設 計 (株)	本 社	950-0908 新潟市中央区幸西 1-1-11	025(245)8345 025(245)8349
ア ジ ア 航 測 (株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-28 (パーク新潟東大通ビル)	025(243)3246 025(247)7969
(株) ア ル ゴ ス	本 社	944-0009 妙高市東陽町 1-1	0255(72)3448 0255(72)9426
アルスコンサルタンツ(株)	本 社	921-8116 金沢市泉野出町 2-1-1	076(248)4004 076(248)4174
い で あ (株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-1 (KDX新潟ビル)	025(241)0283 025(243)5650
(株)エイト日本技術開発	新潟営業所	943-0804 上越市新光町 1-4-52	025(522)7570 025(522)7786
エ ヌ シ ー イ ー (株)	本 社	950-0964 新潟市中央区綱川原 1-4-11	025(285)8540 025(285)3531
大 原 技 術 (株)	本 社	940-0856 長岡市美沢 3-275	0258(35)4511 0258(36)3254
応 用 地 質 (株)	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹 7-27-35	025(274)5656 025(271)6765
(株)オリエントアル コンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (プレイス新潟 4 F)	025(244)7881 025(244)7387
開 発 技 建 (株)	本 社	950-0914 新潟市中央区紫竹山 7-13-16	025(245)7131 025(245)7132
(株)開発技術コンサルタント	本 社	951-8133 新潟市中央区川岸町 3-33-3	025(233)0204 025(233)6465
川 崎 地 質 (株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山 5-7-5	025(241)6294 025(241)6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通 1-2-34	025(257)1888 025(257)1880
北 建 コ ン サ ル (株)	本 社	933-0941 高岡市内免 3-3-6	0766(23)3666 0766(23)3987
(株)キタック	本 社	950-0965 新潟市中央区新光町 10-2	025(281)1111 025(281)0001
(株)協 和	本 社	933-0838 高岡市北島 1406	0766(22)2100 0766(22)7602
(株)クリエイトセンター	本 社	951-8133 新潟市中央区川岸町 2-8-1	025(232)7121 025(232)7130
(株)クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山 4-19-13 (ハイムオカザキ)	025(248)2205 025(248)2206
(株)計画情報研究所	本 社	920-0025 金沢市駅西本町 2-10-6	076(223)5445 076(223)4144
(株)建成コンサルタント	本 社	933-0014 高岡市野村 284-1	0766(25)6097 0766(25)5697

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
建設技研コンサルタンツ(株)	本 社	933-0007 高岡市角 602-1	0766(21)6126 0766(21)6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 7 F)	025(285)6437 025(280)9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代 4-4-27 (新潟テレコムビル)	025(245)3883 025(241)9082
(株)建設技術センター	新潟営業所	957-0056 新発田市大栄町 7-6-3	0254(21)3100 0254(21)3101
(株)構造技研新潟	本 社	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 8 F)	025(282)3337 025(282)3323
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (プレイス新潟)	025(247)0318 025(241)4146
(株)国土開発センター	本 社	921-8033 金沢市寺町 3-9-41	076(247)5080 076(247)5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井 1035-1	025(260)2245 025(260)7522
五大開発(株)	本 社	921-8051 金沢市黒田 1-35	076(240)6588 076(240)6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上 4-4-15	025(260)3141 025(268)4950
(株)上 智	本 社	939-1351 砺波市千代 176-1	0763(33)2085 0763(33)2558
(株)新日本コンサルタント	本 社	930-0142 富山市吉作 910-1	076(436)2111 076(436)2260
相互技術(株)	本 社	950-0994 新潟市中央区上所 2-11-14	025(283)0150 025(283)0152
(株)大東設計コンサルタント	新潟支店	950-0086 新潟市中央区花園 2-1-16 (三和ビル)	025(246)1320 025(247)3740
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0175 富山市願海寺 633	076(436)7855 076(436)6030
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山 4-1-24	025(234)2110 025(234)2111
舘下コンサルタンツ(株)	本 社	939-3553 富山市水橋の場 234	076(478)0090 076(478)1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南 3-1-21 (北陽ビル)	025(283)0211 025(283)0212
(株)中部コンサルタント	本 社	933-0866 高岡市清水町 3-5-9	0766(21)4536 0766(22)4370
(株)長 大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 6 F)	025(288)0271 025(288)0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口 1-19-31	025(244)8445 025(249)4776
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通 1-2-23 (北陸ビル)	025(248)3870 025(248)3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口 1-1-12 (クラスターナインビル 8 F)	025(246)1827 025(246)7463
(株)東洋設計	本 社	920-0016 金沢市諸江町中丁 214	076(263)6555 076(233)1224
ナチュラルコンサルタント(株)	本 社	921-8066 金沢市矢木 2-147	076(246)1171 076(246)4489

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
(株)ナルサワコンサルタント	本 社	950-0964 新潟市中央区綱川原 1-21-11	025(282)2070 025(284)7993
(株)日本海コンサルタント	本 社	921-8042 金沢市泉本町 2-126	076(243)8258 076(243)0887
日 本 工 営 (株)	新 潟 支 店	950-0962 新潟市中央区出来島 1-11-28	025(280)1701 025(283)0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8	025(243)0431 025(241)1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口 2-12-1 (まるよし第5ビル2F)	025(243)4471 025(243)4472
パシフィック コンサルタント(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神 1-1 (プラーカ3 6F)	025(247)1341 025(246)1005
(株)プラネット・ コンサルタント	本 社	920-0353 金沢市赤土町ト 95-1	076(268)1206 076(268)1207
北電技術コンサルタント(株)	本 社	930-0858 富山市牛島町 13-15	076(432)9936 076(432)4280
北陸コンサルタント(株)	本 社	939-8213 富山市黒瀬 192	076(493)7717 076(493)7720
三井共同建設 コンサルタント(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8 (東大通野村ビル)	025(244)2503 025(244)2573
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山 1-1-22	025(265)1122 025(265)1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代 1-1-1	025(243)5454 025(243)5883
(社)北陸建設弘済会	本 部	950-0197 新潟市江南区亀田工業団地 2-3-4	025(381)1020 025(383)1205
(助)新潟県建設技術センター	本 部	950-1101 新潟市西区山田 2522-18	025(267)4804 025(267)4854

各部会・委員会委員名簿

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
部 会 長		寺 本 邦 一	開発技建(株)
		新 家 久 司	(株)国土開発センター
		吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
		小野塚 眞 一	(株)キタック
		田 辺 修	開発技建(株)
		金 子 慶 一	(株)国土開発センター
		大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
		西 潟 常 夫	(株)キタック

対外活動部会			
部 会 長		寺 本 邦 一	開発技建(株)
		新 家 久 司	(株)国土開発センター
		吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
		小野塚 眞 一	(株)キタック
		関 博	(株)オリエンタルコンサルタンツ
		柳 沢今朝次郎	(株)キタック
		田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
		大 平 則 夫	エヌシーイー(株)
幹 事		坂 上 悟	開発技建(株)
新潟地域委員	委員長	小野塚 眞 一	(株)キタック
	委員	阿 部 良 満	エヌシーイー(株)
	委員	山 岸 守	開発技建(株)
	委員	上 田 茂 樹	(株)クリエイトセンター
	委員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	委員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
富山地域委員	委員長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	委員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	委員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
	委員	吉 田 勉	(株)上智
	委員	大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
	委員	栄 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	委員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
	委員	酒 井 幸 雄	(株)日本海コンサルタント

総括部会			
部 会 長		田 辺 修	開発技建(株)
		横 山 徹 成	開発技建(株)
		青 木 和 之	エヌシーイー(株)
		佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
		大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)

		浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
		山 木 芳 幸	相互技術(株)
		西 潟 常 夫	(株)キタック
		齋 藤 真 晴	開発技建(株)

技 術 部 会			
部 会 長		横 山 徹 成	開発技建(株)
道 路 委 員 会	委員長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
	委 員	平 岸 純	(株)国土開発センター
	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
	委 員	清 原 宏 二	開発技建(株)
橋 梁 委 員 会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
	委 員	渋 木 薫	エヌシーイー(株)
	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
	委 員	小 原 隆 一	(株)東洋設計
	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
河 川 及 び 砂 防 委 員 会	委員長	涌 井 正 樹	(株)キタック
	委 員	永 矢 貴 之	(株)建設技術研究所
	委 員	亀 田 満	(株)国土開発センター
	委 員	佐 藤 裕 司	五大開発(株)
	委 員	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
	委 員	須 田 玲	エヌシーイー(株)
	委 員	竹 内 聡	開発技建(株)
	委 員	小 柳 徹	(株)キタック
ト ン ネル 委 員 会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
	委 員	小 林 博 実	エヌシーイー(株)
	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
	委 員	桐 沢 芳 広	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	委 員	平 野 吉 彦	(株)キタック
	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
都 市 計 画 委 員 会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
	委 員	永 島 未 輝	(株)国土開発センター
	委 員	石 月 謙 一	大日本コンサルタント(株)
	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建 設 環 境 委 員 会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)

	委員	稲葉弘之	アルスコンサルタンツ(株)
	委員	栗山元英	エヌシーイー(株)
	委員	酒井信次	大日本コンサルタント(株)
	委員	西暢人	(株)日本海コンサルタント
	委員	藤本隆則	(株)キタック
	委員	平野博範	(株)国土開発センター
指針等検討委員会	委員長	真嶋利寿	エヌシーイー(株)
	委員	高橋邦夫	開発技建(株)
	委員	森将恒	(株)キタック
	委員	大越敏行	大日本コンサルタント(株)
	委員	若林修	東京コンサルタンツ(株)
	委員	安藤正幸	(株)日本海コンサルタント
	委員	猪隆	(株)クリエイトセンター
情報委員会	委員長	樋浦慎	開発技建(株)
	委員	内山徹	エヌシーイー(株)
	委員	島健	(株)キタック
	委員	大関一成	(株)クリエイトセンター
	委員	湯川幹	(株)国土開発センター
	委員	野入英明	大日本コンサルタント(株)

広報部会			
部会長		青木和之	エヌシーイー(株)
広報委員会	委員長	間瀬義昭	開発技建(株)
	委員	浜辺良彦	相互技術(株)
	委員	佐々木大介	(株)ナルサワコンサルタント
	委員	佐藤浩	(株)開発技術コンサルタント
	委員	澤田伸也	大日本コンサルタント(株)
	委員	瀧上彰	アルスコンサルタンツ(株)
	委員	大久保喜代志	(株)東洋設計
	委員	深町耕史	(株)建設技術研究所
会誌編集委員会	委員長	武田稔	(株)クリエイトセンター
	委員	猪俣孝之	大日本コンサルタント(株)
	委員	須藤勝彦	(株)国土開発センター
	委員	齋藤浩幸	(株)キタック

災害対策部会			
部会長		技術部会長	橋梁委員 トンネル委員
		道路委員	
		河川及び砂防委員	
		総括部会長	

編集後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

3月11日には東日本大震災から2年が経過します。

昨年の秋に「震災復興に一役！」と思い、岩手、宮城、福島県の名所を訪ねて来ました。

地元の旅館に宿泊をして、地元の特産品をお土産に買うことにより、少しは復興の手助けが出来たのではないかと考えております

被災現場も何箇所か見て来ましたが、2年近く経っても、復興状況は思っていたほど進んでいないように見えました。

昨年末の衆議院議員選挙では自民党が政権を3年ぶりに奪還し、新しい政権下のもとで一日も早い本格的な復旧、復興が望まれています。

何はともあれ今年こそ穏やかな一年であることを願いつつ、皆様のご活躍をお祈り致します。

武 田 稔

雪 の 音 Vol.117

発 行 一般社団法人 建設コンサルタント協会
北陸支部

〒950-0965

新潟市中央区新光町6番地1

(興和ビル)

TEL(025)282-3370・FAX(025)282-3371

会誌編集委員会

委員長 武田 稔

委員 齋藤 浩幸 須藤 勝彦

猪俣 孝之

印 刷 (株)第一印刷所



発行：一般社団法人建設コンサルタント協会北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル
TEL (025) 282-3370 FAX (025) 282-3371